

<2023年度>

第5回理事会議案書

2023年 11月 17日

一般社団法人 全国鐵構工業協會

2023年度 第5回理事会 議事次第

一般社団法人 全国 鐵 構 工 業 協 会

場 所： 熊本郷土料理「青柳」

日 時： 2023年11月17日(金)
15:00~17:00

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告(定款第36条)

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 報告事項

- (1) 2024年賀詞交歓会実施について ----- [理23-5-報1] (p3)
- (2) 委員会等活動状況報告
 - ① 中期ビジョン検討委員会 ----- [理23-5-報2①] (p4)
 - ② 人材育成委員会 ----- [理23-5-報2②] (p5-)
 - ③ 技術委員会 ----- [理23-5-報2③] (p8-)
 - ④ 運営委員会 ----- [理23-5-報2④] (p10)
 - ⑤ (仮称) 建築鉄骨技能検討WG ----- [理23-5-報2⑤] (p11-)
 - ⑥ (仮称) 凶面問題対応検討WG ----- [理23-5-報2⑥] (p13)
- (3) 技能者(現場溶接工、鍛冶工)能力評価制度について ----- [理23-5-報3] (口頭)
- (4) ロボット溶接オペレータ資格について ----- [理23-5-報4] (別紙)
- (5) 特定技能外国人材対応について ----- [理23-5-報5] (p14-)
- (6) 「働き方改革」に関する発信について ----- [理23-5-報6] (p17-)
- (7) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について ---- [理23-5-報7] (p19)
- (8) その他 (①50周年記念映像関連 ②BIM関連調査
③一次加工工場の品質管理 ④品質管理責任者) ----- [理23-5-報8] (p20-)

6. その他の定例報告事項

- (1) 構成員登録状況 ----- [理23-5-他1] (p25-)
- (2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- [理23-5-他2] (p30)
- (3) 2023年度主要会議日程 ----- [理23-5-他3] (p31)
- (4) 支部報告 ----- [理23-5-他4] (p32-)

7. 閉会の辞

以上

報 告 事 項

【 理23-5-報1 】

2024年新年賀詞交歓会〔1月19日（金）〕 当日のスケジュール

1. 場 所

鉄鋼会館

〔 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 〕

TEL 03-3669-4856

2. 時 間 割

- | | | |
|------------|-----------------------|------------|
| (1) 三 役 会 | 9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0 | 第一会議室（全構協） |
| (2) 理 事 会 | 1 2 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0 | 8 0 5 号室 |
| (3) 全国理事長会 | 1 4 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0 | 8 0 1 号室 |

[次 第]

[進行：平井総務部長]

② 会長挨拶 14 : 30-14 : 45

② 事業報告等 14 : 45-15 : 30
(各委員会 3~5分)

〔 ・中期ビジョン検討委員会 ---
・人材育成委員会 -----
（*各WG） -----
・運営委員会 -----
・技術委員会 -----
・その他活動報告等 ---- 〕

(4) 新年賀詞交歓会 1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0 9 0 1 号室

[次 第]

[進行：総務部 滝本課長]

① 会長挨拶 (一社)全国鐵構工業協会 会長 永 井 毅

② 来賓挨拶 参議院議員 佐藤 信秋 様
参議院議員 足立 敏之 様
経済産業省 製造産業局金属課長 松野 大輔 様
国土交通省 住宅局 参事官 前田 亮 様

③ 乾 杯(一社)全国鐵構工業協会 副会長 大島 嗣雄

④ 中 締(一社)全国鐵構工業協会 副会長 大竹 良明

以 上

【 理23-5-報2① 】

〈 2022～2023年度 〉

第9回 中期ビジョン検討委員会 議事録（案）

1. 日 時 2023年9月29日（金）9：00～12：00
2. 場 所 全構協第1会議室
3. 出席者 大島委員長（副会長）、
佐藤委員（理事；北海道支部長）、三浦委員（理事；東北支部長）、
登尾委員（理事；四国支部長）、岩永委員（理事；九州支部長）
欠席：出雲委員（理事；近畿支部長）
（事務局） 新村
4. 議事次第
 - 1) 委員長挨拶
 - 2) 第8回委員会議事録の確認
 - 3) 中期ビジョンにおけるミッションの具体的項目について
 - 4) 今後のまとめ方について
5. 配布資料
 - ・第8回委員会議事録（案）・・・・・・・・・・資料 No. 1
 - ・ミッションの具体的項目と目標・・・・・・・・・・資料 No. 2
 - ・ビジョン委員会の今後の進め方・・・・・・・・・・資料 No. 3
6. 議事内容
 - 1) 委員長挨拶

ミッションの項目を選定し、2030年目標を全構協中期視点の項目に振り分けて纏めるので協力をお願いしたいとの挨拶があった
 - 2) 第8回委員会議事録の確認

資料 No. 1 の前回議事録（案）を事務局より報告し了承された。
 - 3) 中期ビジョンにおけるミッションの具体的項目について

資料 No. 2 のミッションの具体的項目の集約における各委員の提示項目の意見説明を行い、相互理解を図った。
 - 4) 今後のまとめ方について

次回は11月中にWeb会議にて各ミッションの項目を纏めることとする。日程は事務局より調整する。次々回以降は下記の日程にて調整を図る。

 - 1月18日（木）15時～17時
 - 2月22日（木）9時～12時
 - 3月19日（火）17時～（懇親会）

【 理23-5-報2② 】

人材育成委員会 (第8回) 議事次第

1. 日 時 2023年11月6日(月) 15:00～17:00(予定)

2. 場 所 全構協 第1会議室

3. 出席者 (9名)

- ・ 大竹委員長(全構協副会長)
- ・ 秋山委員(理事：関東支部長) 図面問題対応検討WGリーダー
- ・ 寺田委員(理事：北陸支部長) 次世代経営研修WGリーダー・人づくり研修WGリーダー
- ・ 柏原委員(理事：中部支部長) 教育体系検討WGリーダー・人づくり研修WGサブリーダー
- ・ 妹尾委員(理事：中国支部長) 運営委員会委員長
- ・ 小貫専務理事 (事務局) 平井事務局長、滝本課長、大原(文責)

4. 議事次第

(1) 委員長挨拶 大竹委員長

(2) 次世代経営研修実施状況(関東・中国・東北)

1) アンケート結果(速報)、その他(予算進捗等) 別紙1(5枚) 事務局(滝本・大原)

※ 関東・中国は10/18(水)の三役会でアンケート結果(速報)を報告済

2) 状況・講師所感等(口頭) 講師(小貫)

(3) 人づくり研修WGの進捗状況

中堅社員のための人づくり研修
～ 一人前になったあなたから真の中堅社員へ ～

1) WGでの議論経過概略(紹介) 別紙2(3枚) 寺田リーダー・柏原サブリーダー

※ 臨時WG(9/14(木))、第3回WG(10/5(木))、第4回(10/31(火))

2) 今後のスケジュール 別紙3(1枚) 寺田リーダー

※ 研修内容(詳細)検討、意思決定(三役会・理事会)、日程調整、受講者募集等

(4) 人づくり研修 講師について フリーディスカッション

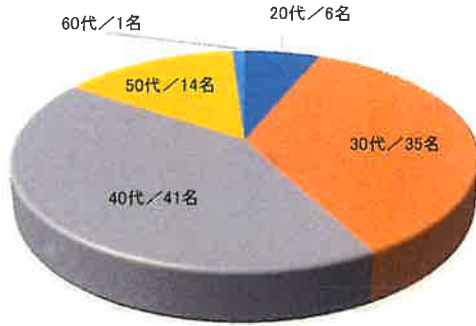
(5) 次世代経営研修ビデオ撮影(8/24三役会案件)、その他 フリーディスカッション

(6) 次回(第8回)の人材育成委員会の開催日程決定 事務局

(7) 申し合わせ事項(決定事項)の確認 事務局

以 上

受講者年齢



受講者数 97名 ※2日目のみの出席/1名

勉強になった項目

最も興味をもった項目

19名 社長(会社のトップ)である

それ以外である 77名



この研修の改善点は？(多かった回答を中心に掲載)

もっとたくさんの人とグループディスカッションをしたかった(グループを途中で変えても良い) : 7件

全体時間を延ばしても良いので、休憩時間をもう少し多く取ってほしい: 5件

ディスカッションの時間がもう少し欲しかった(足りなかった): 2件

映像(例/DVD投影)が欲しかった: 2件

全体を通しての感想(多かった回答のみ掲載)

同世代、同じ立場で意見交換が出来て非常に勉強になった : 8件

グループディスカッションが大変有意義だった : 4件

持ち帰る内容が多く、とても勉強になった: 2件

とても良かった、為になった: 7件

各社代表者の考えが聞けて、参考になることが多かった: 4件

他企業との交流、横のつながりができ、良いと思う: 3件

人づくり研修WG (第4回) 議事録(確定版)

中堅社員のための人づくり研修 ～一人前になったあなたから真の中堅社員へ～

2023.11.02(確定) 全構協事務局(大原)

1. 日時・場所 2023年10月31日(火) 09:58～12:10 於：全構協(第1会議室)

2. 出席者 (9名) (順不同、敬称略)

氏名	10/31(火)	委員会等	会社
寺田 健信	実出席	当WGリーダー	石川県 (株)寺田鉄工建設
柏原 正明	実出席	当WGサブリーダー	静岡県 (株)柏原鐵工所
竹原 慎雅	Web	運営委員	北海道 (株)竹原鉄工所
金本 貴範	実出席	青年部	東京都 (株)日伸鉄工建設
稲垣 法信	Web	三重県副理事長	三重県 (株)稲垣鉄工
小貫・平井・大原・滝本	実出席	全構協	

欠：谷本 匡朗

3. 議事次第

(1) 寺田リーダー挨拶

課題(宿題≡キーワード(コンサルに出すとすれば・・・))の提出に感謝。(寺田Lの)職場での中学生への説明会・高校生の職場見学・インターンシップの際、若い社員が質問にしっかり応えていて感心すると共に、若い社員への教育が大切であると改めて実感した。

(2) 前回議事録の確認

(第3回議事録) 事務局

(3) 課題(宿題)の結果の報告

別紙1 (回答(まとめ)) 事務局

(4) 研修項目、キーワードの整理(ディスカッション)

別紙2 (回答の集約(案)) (寺田)

(5) 研修コンセプトに応じたカリキュラムの検討 (コンサル活用、選定含めて)

モチベーション、対人スキル、自己スキル

別紙2改 (回答集約(追記版)参照)

【主なディスカッション内容等】

1) 3本柱(モチベーション・対人スキル・自己スキル)は維持するが、例えば『報連相』をどこに分類するか等、細部の見直しを行った。(別紙2改参照) ※ここでは詳細は割愛

2) モチベーションはチューター方式(ファブ経営者)、対人スキル・自己スキルはコンサルへの依頼を前提として、今後の作業を進めることとなった。

4. 決定事項

今後のスケジュール(2月理事会で事業内容と一定程度の精度の予算規模を提示、3月理事会で改めての予算規模の提示、4月中に会場・依頼コンサル等を含めてセット完了)を見据え、以下の通り、作業を進めることとなった。(コンサル選定と依頼までは年末までに完了させたい)

(1) コンサル会社推薦

メンバーが知り得たコンサル会社を推薦。(11/8(水)正午締切、10/31回答書式送信済)

(2) 研修スケルトン(案)の策定

8/28に取り纏めた『開催要領』を元に、寺田リーダー・柏原サブリーダーにて起案し、次回のWG(11/21(火) 10:00 Web併用)で議論する。(同11/8(水)起案期限⇒事務局へ)

以上

【 理23-5-報2③ 】

〈 2022～2023 年度 〉

第 7 回 技術委員会 議事録（案）

1. 日 時 2023年9月29日（金） 13：30～17：00
2. 場 所 全構協第一会議室
3. 出席者 佐藤委員長、萩澤副委員長、西山副委員長、
船山、今泉、和田、佐野、山本、谷本、古賀 各委員
（事務局）新村、瓜生、尾下

4. 議事次第 資料No.
 - 1) 委員長挨拶
 - 2) 前回議事録の確認
第6回技術委員会議事録案・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1
 - 3) 溶接施工WGの活動について
入熱・パス間温度記録の報告・・・・・・・・ No. 2
 - 4) 品質不具合事例の調査について
鉄骨製作工程におけるトラブルの事例調査・・・・・・・・ No. 3
 - 5) CAD利用状況調査について
調査結果のまとめ・・・・・・・・ No. 4
 - 6) その他
次回以降の開催について
 - 7) 委員長講評

5. 議事要旨

1) 委員長挨拶

佐藤委員長より、鉄骨業界を賑わせているのは事故の話題ばかりで、実際には施工による問題が多いが鉄骨といわれると我々の業界のマイナスイメージになってしまう。今日は調査していた内容の報告となるのでよろしくお願ひしたい旨の挨拶が行われた。

2) 前回議事録の確認

事務局より、前回議事録（案）が読み上げられ承認された。

3) 溶接施工WGの活動について

西山副委員長と事務局より、溶接施工実験の進捗状況と技術委員会委員に提供を依頼していた入熱・パス間温度記録について報告が行われた。詳細は次の通り。

- ・検討していたロボット溶接による施工は費用面の折合がつかず不採用となった。
- ・F A Bの選定が遅れており、早期の選定を浅田先生に打診する。
- ・入熱・パス間温度記録について、集計したものを匿名化し浅田先生に提供する。

4) 品質不具合事例の調査について

事務局より、品質不具合事例の調査結果について報告が行われた。詳細は次の通り。

- ・材料の精度不良や一次加工による不良の事例が見受けられる。
- ・加工機、ロボットの不具合によるトラブルや修理に長期間を要した事例が見受けられる。
- ・社外要因の不具合対応（一次加工の精度不良等）による生産性の低下が懸念される。

5) CAD利用状況調査について

事務局より、CAD利用状況の調査結果について報告が行われた。詳細は次の通り。

- ・回答数は789社、回答率は約37%となった。
- ・CADソフトの利用状況は各項目ともREAL4が最も多く、用途により実寸法師、JWCAD、FAB21等が続く結果となった。
- ・データ利用形式としてはdwg、dxf形式が各項目とも最も多くなった。
- ・3DCADや3Dデータの利用状況としては、複雑な収まりの確認が多く、提供されたデータはほとんど活用できない結果となった。
- ・記述回答については、回答内容が膨大なため一部紹介にとどめ、詳細は後日確認することとした。

上記、CAD利用状況調査について、各記述項目ごとに5個程度の意見を各委員が選出し次回技術委員会にて三役会への報告内容として取りまとめることとした。

6) その他

次回以降の開催について

- ・第8回 2023年11月22日（水） 13:30～

7) 委員長講評

佐藤委員長より、溶接施工実験遅れの問題もあるが、現在の技術委員会の活動期間も残り少ない中で協議しなければならないことが有るのでよろしくお願ひしたいとの講評が行われた。

以 上

【 理23-5-報2④ 】

運営委員会

委員会報告

1. 日時 2023年10月26日(木) 14:00-16:00
2. 場所 全構協 第2会議室(web併用)
3. 出席者 現地出席/妹尾委員長・猪股副委員長・山田委員・松枝委員
web出席/竹原委員・渡辺委員・鴨林委員
全構協事務局/小貫・平井・大原・滝本
欠席/村岡副委員長・西井委員・益田委員
4. 議事次第
 - 1) 鋼材物流における2024年問題への対応について
 - ・諮問内容の確認(取り組むべき内容を明確にする)
鉄骨製品の納入において、全構協として荷主(ゼネコン)に対して申し入れを行う資料を作成する(運搬に関する荷下ろしの遅延等が発生した場合、遅延金やキャンセル料を請求できるよう、その金額の算出及びその根拠の作成する) ※具体的にはWGの中で進める
 - ・小委員会(仮称)設置での対応
運営委員会の中から、「鋼材物流問題WG(ワーキング)」を設置し検討して行く
WGメンバー/猪股副委員長(リーダー)、山田委員、松枝委員、渡辺委員
第1回WG/11月28日(web会議)
 - 2) 業績等調査について
 - ・回答率向上に向けての取組み(来年度実施に向けて)
【意見/案】
構成員が知りたい情報を設問にする(例/決算報告だけでなく、利益をどこにどう使ったか?)
全国から集まる場(総会・理事長会・事務局長会議等)で運営委員長から発信(依頼)
各県理事長に協力してもらう(理事長に取りまとめてもらう/各県で責任者を決めてもらう)
アンケート内容自体を見ていない
回答の必要性を(改めて)説く必要がある(大切さが伝わっていない)
【予定】
事業社名を入れる(記名式)件については、基本問題なしと判断(次年度も継続)
次年度実施については、年明け~春先(3月)から検討して行く
 - 3) 支部の位置付けの明確化について
 - ・ヒアリングの進捗状況確認(実施済支部からの報告・意見)
理事会に事務局を傍聴させる(オンライン)、ライブ配信を行う
→決定していない事項についての取扱いに懸念、後日オンラインで報告の方が無難か
各支部を対象、全県組合を対象とするのか?
※現在集約済の報告内容から、一部抽出した上での議論
→具体的な協議、取り決めは次回以降で行う

【 理23-5-報2⑤ 】

〈 2022～2023年度 〉

第5回 建築鉄骨技能検討WG議事録(案)

1. 日 時 2023年10月25日(水) 14:00～16:00
2. 場 所 全構協 第1会議室
3. 出席者 秋山リーダー(関東支部長)
齋藤委員(秋田県理事長)、谷脇委員(高知県副理事長)
興栄建設:佐々木部長
(事務局) 新村、佐藤

4. 議事要旨

議事に先立ち、秋山リーダーの挨拶の後、以下の通り議事が進められた。

1) 前回議事録の確認

事務局より、資料No.1の前回議事録(案)を報告し、了承された。

2) 実技試験の試験体について(ZOOM参加 興栄建設:佐々木部長)

各委員は送信された、「試験体の作成と採点」のビデオの事前確認を行い、作成を担当頂いた興栄建設:佐々木部長を交え、実技試験体について検討を行い、以下の意見が出された。

- ・現在の鉄骨製作の工程を考えると、今回の試験体作成におけるガス切断、溶接工程は削除し、組立てだけで良いのではないか。
- ・ルートギャップについては、「7mm±1mm」をJASS6の基準通りに変更して受験No.2の実務者が全問正解になった。サイコロ高さ精度を±1mmとすると、ルートギャップの審査基準はJASS6の基準通りに変更していいのではないか。
- ・合格者の試験時間については、「実務者」が2時間で終わる試験内容でいいと思う。「受験No.3の初心者(経験5年)」は、3時間程度とする。
- ・海外資格者用の試験では、「本溶接なし」「ガス切断、矯正なし」「笠折れ修正なし」として、国内資格者用には、それを入れる等の二段構えでいいのではないか。
- ・審査の基準として、「平板部の裏当て金のすき間は1mm」にする。

上記意見を踏まえ、検討の結果、試験体の形状を以下の通りとした。

<試験体>

コラムは250×250mmで厚さは6mm、長さは250mmとする。ダイアフラムは200φの穴を両方に開け、ビルトHのブラケット長さは、500mmから400mmに変更する。ビルトHの形状は、ハンチ付きの現状の形状のままとし、スリーブ孔は事前にあけることにする。この形状での試験体の重さは、36～38kg位となり、女性でも扱えると思われる。

<審査基準>

「8. 梁の直角度(笠折れ)」、「12. 溶接外観」、「18. 切断面のノッチ深さ」の3項目を削除し、「13. ルートギャップ」は「JASS6」に合わせ、一側は2mm、+側は無制限とする。

- ・上記を踏まえ、佐々木部長に図面の修正をお願いする。

3) 学科試験の項目、審査委員の選定方法等について

各委員より、提出された資料No.3 について、説明をいただくと共に、事務局より、次回までの課題について、以下の通り説明した。

<次回までの課題>

・現時点では、制度内容が確定しているわけではないので、実技試験が必須でなかった場合は、実技試験を学科試験に盛り込む必要がある。どんな項目を入れるか（どこに焦点をあてるか）について検討いただき、11月30日までに提出をいただく。筆記試験の問題数の目安は、学科で20～30問程度、実技で5～10問程度とする。

<次回開催について>

今回は、12月11日（月）13：00～15：00は「WEB」で（課題の締切りは11月30日とする）、最終のWGは、2024年1月18日（木）14：00～16：00とし、検討結果は、3月迄にまとめることとする。

以上

【 理23-5-報2⑥ 】

図面問題対応検討WG (第4回 Web併用) 議事録(確定版)

2023.11.2確定 全構協事務局

1. 日時・場所 2023年10月30日(月) 14:55~17:10 於：全構協(ホスト：第1会議室)

2. メンバー(出席者 8名) (順不同、敬称略)

	氏名	支部名	会社	
実	秋山 順一	関東支部 (リーダー)	新潟県	(株)コスゲ 代表取締役社長
Web	渡辺 勝	東北支部	福島県	(株)ウインズ 代表取締役
実	柏原 正明	中部支部	静岡県	(株)柏原鐵工所 代表取締役
Web	藤田 英輝	近畿支部	奈良県	藤田鉄工(株) 代表取締役

事務局：小貫専務理事・平井事務局長・滝本・大原(文責)

欠席：川野 大成様

3. 会議目的 課題(宿題)の取り纏め結果の共有、各種情報共有、今後の進め方の見定め等

4. 議事次第

(1) リーダー挨拶 秋山 L

今回で第4回、徐々に進んできた。このメンバーで是非、方向性を見出し、具体的な行動に繋げていきたい。今回も活発な意見を伺いたい。

(結び) 本日で方向性がだいぶ見えてきた。この調子で一層、活動を進めていきたい。

(2) 各種情報共有

1) 課題(各自実施の宿題。10/25締切)の取り纏め結果の共有 **別紙1(7枚) 事務局**

※ 課題(宿題) = 『相談可能な専門家等』を各自が書式記入し事務局に提出した。

※ 経産省中小企業庁 取引調査室は省庁横断対応組織。他省庁管轄問題も取扱可能。(会議後確認済)

2) 日建連HP「しわ寄せ」防止キャンペーン月間(11月)の実施 **別紙2(3枚) 事務局**

3) 共同陳情 主要課題の整理・まとめ等/意見交換会議事メモ **別紙3(8枚) 事務局**

4) 建築基準法改正のきっかけになったA事件とは? **別紙4(3枚) 秋山 L**

5) 国土交通省通達類(2022年冬・2023年夏) **別紙5(5枚)小貫専務**

6) 要望する相手先(秋山 L メモ 10.25付) **別紙6(2枚) 秋山 L**

7) 調査結果のカテゴリー分け アクションの相手先・内容(秋山 L) **別紙7(1枚) 秋山 L**

(3) 主な意見(共通認識)

1) 国・建設業界に対し具体的な(系統的な)要望を取り纏める為、建築に詳しい専門家、弁護士事務所等の支援が必要。

2) 本件図面問題の重さを具体的に関係者に突きつける武器として、事例集やアンケートの結果は必要(定性・定量共に必要)。一部の人間からの主張と思われると話が進まない。

5. 決定事項

(1) 事例集『ゼネコン等からの不合理な要求等により、自社で不利益を被った事案』について

⇒ 拙速に全国アンケートを実施しても効果が不詳であることから、まずWGメンバーの情報を集約し、改善要望を取り纏める。(任意書式。11/20(月) 正午締切)

⇒ 47都道府県の賛同を得て連名での要望書とし、国・関係者への陳情要望書とする。

(2) 1回目の国等への要請は、3月中を目途とする。

以 上

最終報告書たたき台（概要）

（技能実習制度及び特定技能制度に関する有識者会議事務局作成）

資料1-2

【理23-5-掛5】

1 新制度及び特定技能制度の位置付けと関係性等

- ・ 現行の技能実習制度を発展的に解消し、人材確保と人材育成を目的とする新たな制度を創設。
- ・ 基本的に3年の育成期間で、特定技能1号の水準の人材に育成。
- ・ 特定技能制度は、適正化を図った上で現行制度を存続。
※現行の企業単独型技能実習のうち、新制度の趣旨・目的に沿うものは適正化を図った上で引き続き実施し、沿わないものは、新制度とは別の枠組みでの受入れを検討。

2 新制度の受入れ対象分野や人材育成機能の在り方

- ・ 受入れ対象分野は、特定技能制度における「特定産業分野」の設定分野に限定。 ※国内における就労を通じた人材育成になじまない分野は対象外。
- ・ 従事できる業務の範囲は、特定技能の業務区分と同一とし、「主たる技能」を定めて育成・評価（1年経過・育成終了時点で試験を義務付け）。
- ・ 季節性のある分野等で、業務の実情に応じた受入れ・勤務形態を認める。 [P]

3 受入れ見込数の設定等の在り方

- ・ 特定技能制度の考え方と同様、新制度でも受入れ分野ごとに受入れ見込数を設定（受入れの上限数として運用）。
- ・ 受入れ見込数や対象分野は経済情勢等の変化に応じて適時・適切に変更。試験レベルの評価等と合わせ、有識者等で構成する会議体の意見を踏まえ政府が判断。

4 新制度での転籍の在り方

- ・ 「やむを得ない場合」の転籍の範囲を拡大・明確化し、手続を柔軟化。
- ・ これに加え、以下を条件に本人の意向による転籍も認める。
 - 人材育成等の観点から、一定要件(同一機関での就労が1年超/技能検定基礎級合格・日本語能力A1相当以上(日本語能力試験N5合格等)/転籍先機関の転籍者数等)[P]を設け、同一業務区分内に限る。
 - 転籍前機関の初期費用負担につき、不平等が生じないための措置を講じる。
- ・ 監理団体・ハローワーク・技能実習機構等による転籍支援を実施。
- ・ 育成終了前に帰国した者につき、それまでの新制度による滞在が2年以下の場合、前回育成時と異なる分野・業務区分での再入国を認める。
- ・ 試験合格率等を受入れ機関・監理団体の許可・優良認定の指標に。

5 監理・支援・保護の在り方

- ・ 技能実習機構の監督指導・支援保護機能や労働基準監督署・出入国在留管理庁との連携等を強化し、特定技能外国人への相談援助業務を追加。
- ・ 監理団体の許可要件厳格化。
 - 監理団体と受入れ機関を兼職する役職員の関与の制限/外部監視の強化/職員の配置、財政基盤、相談対応体制等の厳格化。
 - ※ 優良監理団体については、手続簡素化といった優遇措置。
- ・ 受入れ企業につき、支援体制、分野別協議会への加入等、要件を適正化。

6 特定技能制度の適正化方策

- ・ 新制度から特定技能1号への移行は、以下を条件。
 - ①技能検定3級等又は特定技能1号評価試験合格
 - ②日本語能力A2相当以上(日本語能力試験N4合格等)
※当分の間は相当講習受講も可
- ・ 試験不合格となった者には再受験のための最長1年の在留継続を認める。
- ・ 支援業務の委託先を登録支援機関に限定し、人員配置等の登録要件を厳格化/キャリア形成も支援。
- ・ 育成途中の特定技能1号への移行は本人意向の転籍要件と併せて検討。 [P]

7 国・自治体の役割

- ・ 入管、機構、労基署等が連携し、不適正な受入れ・雇用を排除。
- ・ 送出国と連携し、不適正な送出国を排除。
- ・ 業所管省庁と業界団体が連携、受入れガイドライン・プログラム策定等。
- ・ 日本語教育機関を適正化し、日本語学習の質を向上。
- ・ 自治体において、相談窓口の整備、生活環境整備の取組を推進。

8 送出国及び送出しの在り方

- ・ 二国間取決め(MOC)により送出国の取締りを強化。
- ・ 送出国・受入れ機関の情報の透明性を高め、送出国間の競争を促進。
- ・ 支払手数料を抑え、外国人と受入れ機関が適切に担する仕組みを導入。

9 日本語能力の向上方策

- ・ 継続的な学習による段階的な日本語能力向上。
※就労開始前にA1相当以上(日本語能力試験N5合格等)又は相当講習受講
特定技能1号移行時にA2相当以上(〃N4合格等)※当分の間は相当講習受講も可
特定技能2号移行時にB1相当以上(〃N3合格等)
- ・ 日本語支援に取り組んでいることを優良受入れ機関の認定要件に。
- ・ 日本語教育機関認定法の仕組みを活用し、教育の質の向上を図る。

基本的な考え方

現在、技能実習制度及び特定技能制度を取り巻く状況として、国内において、特に地方や中小零細企業を中心に人手不足が深刻化し、外国人が日本の経済社会の担い手となっているという実情がある。国際的な人材獲得競争が激しさを増している中では、日本は、外国人材の確保について正面から検討すべき段階に来ている。

技能実習制度と特定技能制度の在り方の見直しは、次の方向性に集約できる。

- I 技能実習制度を、実態に即して、人材確保を行うとともに、特定技能1号の技能水準の人材を育成する新たな制度とすること
- II 外国人材に日本が選ばれるよう、キャリアパスを明確化し、新たな制度から特定技能制度へ円滑な移行を図ること
- III 外国人の人権保護の観点から、一定の要件の下で本人意向の転籍を認めるとともに、監理団体・登録支援機関・送出機関等を適正化して有効に活用すること

1 新たな制度及び特定技能制度の位置付けと両制度の関係性等

- ① 現行の技能実習制度を実態に即して発展的に解消し、我が国社会の人手不足分野（注）における人材確保と人材育成を目的とする新たな制度（以下「新たな制度」という。）を創設する。人材確保に関しては、人権の保護を前提とした上で、地方における人材確保も図られるようにする。
- ② 新たな制度は、未熟練労働者として受け入れた外国人を、基本的に3年間の就労を通じた育成期間において計画的に特定技能1号の技能水準の人材に育成することを目指すものとする。

2 新たな制度の受入れ対象分野や人材育成機能の在り方

- ① 新たな制度の受入れ対象分野については、現行の技能実習制度の職種等を当然に引き継ぐのではなく、新たな制度と技能実習制度の趣旨・目的の違いを踏まえ、新たに設定するものとする。その際、新たな制度が人手不足分野における特定技能1号への移行に向けた人材育成を目的とするものであることから、新たな制度の受入れ対象分野は、特定技能制度における「特定産業分野」が設定される分野に限ることとし、我が国内における就労を通じた人材育成になじまない分野については、新たな制度の対象とせず、特定技能制度でのみ受け入れることを可能とする。

3 受入れ見込数の設定等の在り方

- ① 新たな制度は人手不足分野の人材確保も目的の一つとするものであるため、日本人の雇用機会の喪失や処遇の低下等を防ぐ観点及び外国人の安定的かつ円滑な在留活動を可能とする観点から、現行の特定技能制度の考え方にのっとり、受入れ分野ごとに受入れ見込数を設定し、これを受入れの上限数として運用する。
- ② 新たな制度及び特定技能制度における受入れ見込数や受入れ対象分野は、国内労働市場の動向や経済情勢等の変化に応じて適時・適切に変更できるものとし、真に人材を必要とする分野等に必要な人員が行き渡る運用とする。
- ③ 新たな制度及び特定技能制度における受入れ見込数の設定、受入れ対象分野等の設定、特定技能評価試験等のレベルや内容の評価等については、有識者や労使団体などの様々な関係者等で構成する新たな会議体が業所管省庁や業界団体等からの説明、情報共有に基づき議論した上での意見を踏まえ、制度全体としての整合性に配慮しつつ、政府が判断するものとする。

10 その他（新たな制度に向けて）

- ① 政府は、現行の技能実習制度から新たな制度への移行に当たっては、現行の技能実習制度が長年にわたって活用されてきたという経緯や、現在も多くの技能実習生が受け入れられているという実態に留意し、移行期間を十分に確保すべきである。また、政府は、丁寧な事前広報を行い、技能実習生、監理団体、受入れ機関、外国人技能実習機構等の制度関係者の間に無用な混乱や問題が生じないよう、また、不当な不利益や悪影響を被る者が生じないよう配慮する。
- ② 政府は、新たな制度及び特定技能制度について、制度の趣旨、内容等を適切に国内外に情報発信することにより、制度目的が着実に達成されるようにするとともに、制度に対する誤解等を招くことのないよう努める。
- ③ 関係省庁は、新たな制度の施行後も、他の外国人材の受入れ制度との整合性を含め、新たな制度が制度趣旨・目的に照らして円滑かつ適切に運用されているか否かにつき、不断の検証と必要な見直しを行う。

【 理23-5-報6 】

「働き方改革」に関する発信について

1. 発信内容

チラシ・ポスター・新聞掲載



【表面】



【裏面】

日付が入ります
(2023年12月)

※ポスターは表面のみ(添付 QR コードから[裏面の]内容を開覧する形)

2. 発信

・チラシ

配布先／各構成員取引先〔建設会社・設計事務所等〕

全構協からデータを各県組合へ送付

→各県組合から構成員へ(データのままメール or プリントアウトして)配布

→構成員から取引先〔建設会社・設計事務所等〕へ配布(PR をしてもらう)

納期(データ送付):11月20~24日予定

・ポスター

配布先／各県組合・構成員

全構協から各県組合、全構成員へ各1枚発送

→各県組合、構成員／事業所内に掲示してもらう

納期(ポスター発送):12月4~8日予定

・新聞掲載

地方建設専門紙の会を通じて広告掲載(加盟33紙・読者74万人/次ページ参照)

全4段サイズ(高さ約13cm)、横長のレイアウトにアレンジ(調整)して掲載

納期(掲載日):12月11~15日予定(各紙発行日の関係で掲載日が前後する)



←新聞掲載レイアウト(イメージ)

3. 経費

ポスター／各県組合・構成員:各1枚発送(作成・封入・発送)→約90万(税込)

チラシ／データ作成費+web(ホームページ)作成費

新聞広告／約180万(税込)

地方建設専門紙の会 33紙

地方	新聞名	会社名	発行形態	発行日
北海道	北海道建設新聞	(株)北海道建設新聞社	日刊	火～土
東北	日刊青森建設工業新聞	(株)日刊青森建設工業新聞社	日刊	月～金
	建設新聞	(株)建設新聞社	日刊	月～金
	日刊岩手建設工業新聞	(株)日刊岩手建設工業新聞社	日刊	月～金
	日刊秋田建設工業新聞	(株)秋田建設工業新聞社	日刊	月～金
	福島建設工業新聞	(株)福島建設工業新聞社	週3回	月・水・金
関東	日本工業経済新聞	(株)日本工業経済新聞社	日刊	火～土
	群馬建設新聞	(株)日本工業経済新聞社	日刊	火～土
	埼玉建設新聞	(株)日本工業経済新聞社	日刊	月～金
	日刊建設タイムズ	(株)日刊建設タイムズ社	日刊	月～金
	建通新聞東京	(株)建通新聞社	日刊	月～金
	建通新聞神奈川	(株)建通新聞社	日刊	月～金
中部	山梨建設新聞	(株)日本工業経済新聞社	日刊	火～土
	新建新聞	(株)新建新聞社	旬刊	5・15・25日
	日刊建設工業新聞	(株)北陸工業新聞社	日刊	月～土
	建通新聞静岡	(株)建通新聞社	週3回	月・水・金
	建通新聞中部	(株)建通新聞社	日刊	月～金
近畿	滋賀産業新聞	(株)SIN	日刊	月～金
	建設経済新聞	(株)建設経済新聞社	日刊	月～金
	建通新聞大阪	(株)建通新聞社	日刊	月～金
中国	建設工業新聞	(有)日刊建設工業新聞	日刊	月～金
	建通新聞岡山	(株)建通新聞社	週3回	月・水・金
四国	建通新聞徳島	(株)建通新聞社	週2回	火・金
	建通新聞香川	(株)建通新聞社	週2回	火・金
	建通新聞愛媛	(株)建通新聞社	週2回	火・金
	建通新聞高知	(株)建通新聞社	週2回	火・金
九州 沖縄	長崎建設新聞	(株)建設新聞社(長崎)	週4回	火・水・金・土
	佐賀建設新聞	(株)建設新聞社(佐賀)	週3回	火・木・土
	西日本建設新聞	(株)西日本建設新聞社	週2回	月・金
	大分建設新聞	(株)大分建設新聞社	日刊	火～土
	建設新聞	建設ネット(有)	月6回	1・6・11・16・21・26日
	鹿児島建設新聞	(株)鹿児島建設新聞	日刊	火～土
	沖縄建設新聞	(株)沖縄建設新聞	週1回	水

代表理事等の業務執行状況報告

法人法第91条第2項及び定款第24条第6項に基づき、2023年度4月から現在までの業務施行状況について、下記のとおり報告します。

なお、各事項の詳細内容については、2023年度第1回から第4回までの理事会理事会において説明・報告済であるため、本報告は、項目の報告のみといたします。

	代表理事	業務執行理事(専)
1. 協会の運営全般に関する事項		
(1) 通常総会の開催・運営、参加		
第56回通常総会(2023年 6月 16日開催)	◎	◎
(2) 理事会の開催・運営		
・第1回理事会(2023年 5月23日開催)	◎	◎
・第2回理事会(2023年 6月16日開催)	◎	◎
・第3回理事会(2023年 7月11日開催)	◎	◎
・第4回理事会(2023年 9月28日開催)	◎	◎
・第5回理事会(2023年 11月17日開催)	◎	◎
(3) 委員会の開催・運営、参加		
・運営委員会 ・4月11日～10月26日 全 5 回		◎
<特別委員会、WG等>		
・人材育成委員会 ・4月4日～11月6日 全 6 回		◎
(次世代研修WG) ・8月31日 ・9月8日		◎
(人づくり研修WG) ・6月26日～10月31日 全 5 回		◎
・50周年記念事業準備委員会 ・4月28日～7月3日 全 4 回	◎	◎
・高規格材鉄骨製作支援委員会 ・4月 27日	◎	◎
・図面問題対応検討WG ・7月26日～10月30日 全 4 回		◎
(4) その他会議等の開催・運営、参加		
・三役会 ・4月 7日～11月17日 全12回	◎	◎
・全国事務局長会議 ・4月 7日	◎	◎
・青年部 総会 ・5月 13日	◎	◎
・鉄骨技術審議会 ・8月25日	◎	◎
(5) 2022年度事業報告及び決算報告とりまとめ	◎	◎
(6) 業務監査対応 ・4月27日		◎
2. 会員に対する協会運営方針等の説明・周知及び 会員意見の聴取		
(1) 各県組合総会、各県組合周年行事及び支部会等への出席及び意見交換	◎	◎
<各県総会等> ・山形 5月16日 ・愛知 5月18日 ・北海道 5月19日		
・東京 5月24日 ・兵庫 5月26日		
<各県周年行事> ・静岡 5月24日 ・広島 5月25日 ・三重 5月25日		
・大阪 5月26日 ・福岡 8月22日 ・福島 9月15日		
<各支部会> ・東北支部 6月 6日 ・九州支部 6月 13日 ・中国支部 10月 11日		
・中部支部 10月 24日 ・四国支部 10月 25日 ・関東支部 10月 26日		
(2) 賛助会員との懇談会		
・賛助会員36社(団体) ・9月28日	◎	◎
3. 陳情活動等		
(1) 共同陳情活動への参加 ・7月 19日～8月22日	◎	◎
4. 特定技能外国人材関連等、経産省との協議		
(1) 経済産業省との協議 ・9月 21日 ・10月16日		◎
5. 対外活動及び他団体との連携強化		
(1) 評価機構		
○ 総会 ・6月16日	◎	
(2) 鉄骨製作支援協議会-運営会議 ・6月20日	◎	◎
(3) その他団体等		
○ 全国鐵構工業企業年金基金 代議員会 ・4月 18日 ・7月20日		◎
○ 日本溶接協会 総会 ・6月14日	◎	◎

○代表理事=永井会長

○業務執行理事(専)=小貫専務理事

【 理23-5-報8② 】

BIM 化に関する調査依頼について

下記の調査依頼が全構協ホームページ問い合わせに参っております。

-----お問い合わせ内容-----

現在、一般社団法人 buildingSMART Japan では、建築委員会傘下の構造設計小委員会に鉄骨詳細検討 WG を立ちあげ、活動を行っております。この活動は、BIM により鉄骨製作業務の効率化を目指しており、本年 5 月に公開した ST-Bridge Ver.2.1 では、鉄骨継手関係に関して、BIM と専用 CAD、また専用 CAD 間の情報連携を考慮した仕様を公開しております。

今般、今後の鉄骨業務の効率化を更に推進すべく、アンケート調査を実施させていただきたいと考えております。

現在の業務上の課題を明らかにすることにより、デジタルで解決すべきこと、それ以外で解決すべきことを明確にし、課題解決に向け活動していきたいと考えております。

(中略)

是非ご検討いただけますと幸いです。

清水建設株式会社

生産技術本部 BIM 推進部 開発グループ長

一般社団法人 buildingSMART Japan 構造設計小委員会委員長

大越 潤

全構協ウェブサイト お問い合わせフォーム

アンケートの内容を確認したところ、下記の項目でした。

- ①エンジニアリングに関するもの →設計協力、積算など受注前活動を含む
- ②設計変更に関するもの
- ③材料調達に関するもの
- ④工作図に関するもの
- ⑤CAD に関するもの
- ⑥製作に関するもの
- ⑦契約に関するもの →後契約などコンプライアンスに関わる内容を含む
- ⑧承認に関するもの
- ⑨BIM モデル承認に関するもの

BIM 化の業界での動向把握の為に、調査に協力することはメリットがあると考えられますが、全構協にて CAD 利用アンケート調査を行ったばかりでもあり、一部回答に苦慮する設問も含んでいることを鑑み、アンケート実施はお断りし、全構協で行った CAD 利用アンケート調査のデータから一部関係する部分のみを提供することで対応させていただきます。

なお、提供するデータは理事会で説明し、了解を得たものと致します。

buildingSMART Japan とは

設立趣旨

buildingSMART は、建設業界におけるデータの共有化および相互運用を目的として、その中で IFC (Industry Foundation Classes) の策定や標準化活動を行う国際的な団体です。IFC は、2013 年に国際標準 ISO(16739:2013)となりました。

現在、buildingSMART は日本を含む 18 の国際支部があり、その日本支部が一般社団法人 buildingSMART Japan です。

データ共有化による相互運用をソフトウェア上で解決できていないということが、いろいろな面で生産性の効率化において問題となっています。このことは、建築ライフサイクル、すなわち、設計、施工、および保守管理において、非効率的な作業過程をもたらしています。多くの担当者はライフサイクルの中で同じような作業状況に遭遇し、何度も情報の追加や検索を行わなければなりません。高度情報化時代にありながら、ほとんどの作業で多くの無駄が発生しています。

このような問題意識をもつ北米12 の会社が、1995 年のジョージア州アトランタで開催された A/E/C システムショーで相互運用の可能性を立証するための一連のプロトタイプ・アプリケーションを展示するとともに、世界中の建設業界に対して、この活動への参加を募りました。こうして、国際的な IAI (International Alliance for Interoperability、現 buildingSMART International)が誕生しました。IAI日本支部(現 一般社団法人buildingSMART Japan)はその半年後の 1996 年に創立されました。

活動目標と方針

以上のことから buildingSMART Japan では、建物のライフサイクルを通してデータを共有化し、有効な相互運用を可能にするための活動を行います。コンピュータを利用した高度情報化に対し、標準化を図り、異なるソフトウェア・アプリケーションでも利用できるデータの共有化とその活用の実現化を目的としています。具体的には、プロジェクトのライフサイクルを通して、各業種とソフトウェア・アプリケーションで使用する共有データの仕様の定義、利用の推進、そして広報活動を推し進めていきます。

buildingSMART Japan の主な活動

経営委員会の開催
運営委員会の開催
技術統合委員会の開催
各委員会・小委員会の開催
国際評議会 参加
国際技術統合委員会 参加
セミナーの開催
Build Live の開催
ニュースレター発行
メールニュース配信
ホームページでの情報発信
IFC 検定の実施 等

(buildingSMART Japan のホームページより抜粋)

2023年11月17日

一般社団法人鉄骨技術者教育センター

品質管理責任者講習制度の実施について

1. はじめに 一本講習会実施に至った経緯

鉄骨製作においては品質管理が重要であることから、鉄骨製作工場の大員認定制度では品質管理体制の要として品質管理責任者を配置するよう定められています。

この品質管理責任者の配置については工場の規模や諸事情によって、他の管理技術者との兼務が見られましたが、2019年4月に評価機関は指針を改定し、Mグレード以上の工場について品質管理責任者の位置づけを明確化し、その要件を示しました。これにより、Mグレード以上の工場では品質管理責任者と他の管理技術者の兼務状況は解消されるに至っています。

一方、現状では、性能評価に際して品質管理責任者に求められる要件は経験年数のみであるため、本来品質管理責任者としての職務遂行に必要な鉄骨製作や品質管理の基礎知識を十分に持たないまま品質管理責任者となる事例が増える傾向にあり、新たな課題となっています。

このような状況を改善するため、昨年、(株)全国鉄骨評価機構は(株)日本鉄骨評価センターとともに、当センターに対して「鉄骨製作工場の品質管理責任者に対する教育制度」の検討を提案しました。

この提案を受けて、当センターでは、学識経験者、全国鉄骨工業協会会員、鉄骨建設業協会会員、全国鉄骨評価機構、日本鉄骨評価センターをメンバーとするワーキンググループを設置し、「鉄骨製作工場の品質管理責任者の要件等の整理とそのために必要な講習内容」について検討してきました。

その結果、工場の品質管理責任者を対象とした講習制度を新設し、「本制度に基づく講習を修了すること」を品質管理責任者の要件にすることが、品質管理体制の維持管理の一層の向上と品質管理責任者の役割の明確化に有効であるとの結論に至りました。

ワーキンググループでまとめられた講習制度の骨子は、次頁の3. に示すとおりです。

2. 性能評価における「本講習制度」の取り扱い

性能評価機関は、品質管理責任者の取り扱いを定めた指針（内規）を2023年度中に改正することとしており、約1年の周知期間を経て2025年度以降に受け付ける性能評価より、当センターの講習を修了することが品質管理責任者の要件となる予定。

なお、内規改正後、2026年度までの性能評価は猶予期間となる予定。

3. 講習制度の骨子

1) 本講習の受講対象

現在大臣認定を取得している工場、及び今後申請予定の工場に所属する品質管理責任者を対象とする。

なお、講習の開始は 2024 年度(2024 年 12 月から開始予定)からであり、2024 年度から 2026 年度までの 3 年間で全対象者に受講してもらうため、講習受付は、評価の申請時期が早い対象者を優先して受け付けることとし、猶予期間後の 2027 年度以降については、開催場所を集約して実施する予定。

2) 本講習の内容等

受講者	鉄骨製作管理技術者 (1 級・2 級) 未取得者	鉄骨製作管理技術者 (1 級・2 級) 有資格者
講習内容 ・時間 (対面講義)	第 1 日目 鉄骨製作 13:00~17:00 (4H)	第 1 日目 なし
	第 2 日目 品質管理 9:30~16:30 (6H)	第 2 日目 品質管理 9:30~16:30 (6H)
受講料(仮)	33,000 円 (税込)	22,000 円 (税込)

注1) テキストは別

注2) 受講料は仮値。今後諸費用を精査して決定する。

3) 本講習の実施時期と地区

◎実施時期：毎年 12 月上旬~2 月上旬で 1 回 2 日間の講習(人数の多い場合は 3 日)

◎実施地区：全国 5 地区程度を予定、但し、4 年目以降は改めて検討。

4) その他

- ・本講習を受講した者には、受講証明書(修了証)を発行する。(3 月末)
- ・受講後の更新については検討中。

以上

その他の定例報告事項

【 理23-5-他1 】

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
令和5年3月31日現在 (令和4年度増減数)		24	46	2,172
令和5年5月23日 第1回理事会	3月31日	(0)	(9)	2,172
令和5年6月16日 第2回理事会	6月9日	9	3	2,178
令和5年7月11日 第3回理事会	7月6日	1	3	2,176
令和5年9月28日 第4回理事会	9月21日	2	5	2,173
令和5年11月17日 第5回理事会	11月7日	2	5	2,170
累 計		14	16	2,170

《グレード別内訳》

S : 8 H : 287 M : 815 R : 575 J : 39 未 : 446 合計 : 2,170

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

令和5年11月7日現在

区分	登録・取消 承認	増 減								増減差	増 減 後 構 成 員 数
		登録 社数	取消社数								
			倒 産	転・廃業	縮 小	工場閉鎖	休 業	その他	合 計		
平成18年度合計	49	8	15	19	6	3	29	80	-31	2,739	
平成19年度合計	51	13	19	20	6	1	20	79	-28	2,711	
平成20年度合計	49	17	17	29	0	4	41	108	-59	2,652	
平成21年度合計	37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538	
平成22年度合計	23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395	
平成23年度合計	14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260	
平成24年度合計	20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200	
平成25年度合計	13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171	
平成26年度合計	26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158	
平成27年度合計	36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169	
平成28年度合計	36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172	
平成29年度合計	56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201	
平成30年度合計	34	2	5	6	0	1	13	27	7	2,208	
令和元年度合計	25	0	10	9	1	0	14	34	-9	2,199	
令和2年度合計	32	0	12	6	1	0	15	34	-2	2,197	
令和3年度合計	27	1	10	7	1	0	11	30	-3	2,194	
令和4年度合計	24	1	14	9	3	0	19	46	-22	2,172	
令和 5 年度	第2回 (6月9日)	9	0	2	1	0	0	3	6	2,178	
	第3回 (7月6日)	1	0	0	0	0	3	3	-2	2,176	
	第4回 (9月21日)	2	1	0	0	1	0	3	5	2,173	
	第5回 (11月7日)	2	0	2	0	0	0	3	5	2,170	
	第6回 (月日)										
	第7回 (月日)										
	第8回 (月日)										
	年度未処理										
	5年度計	14	1	4	1	1	0	9	16	-2	2,170
累 計	1,101	502	701	547	131	79	1,192	3,152	-2,051	2,170	

1. 転・廃業内訳	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	転業 1社	転業 0社	転業 2社	転業 4社	転業 0社
	廃業 9社	廃業 12社	廃業 8社	廃業 10社	廃業 4社

2. グレード別取消内訳	S	H	M	R	J	未	合計
令和元年度	0	1	3	13	0	17	34
令和2年度	0	0	14	7	0	13	34
令和3年度	0	2	5	6	0	17	30
令和4年度	0	1	5	7	2	31	46
令和5年度	0	0	4	3	0	9	16

構成員登録社数・増減一覧表

(R5. 9. 22~R5. 11. 7)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回		
北海道	北海道	75			0	75		
	東北	青森	36			0	36	
		岩手	32			0	32	
		宮城	41		2	-2	39	
		秋田	23			0	23	
		山形	27			0	27	
		福島	62			0	62	
		関東	茨城	60			0	60
			栃木	50			0	50
			群馬	64	1		1	65
埼玉	52			1	-1	51		
千葉	57			1	-1	56		
東京	47				0	47		
神奈川	44				0	44		
北陸	新潟	85			0	85		
	山梨	31			0	31		
	長野	64		1	-1	63		
	富山	39			0	39		
	石川	33			0	33		
	福井	43			0	43		
	岐阜	73			0	73		
中部	静岡	92			0	92		
	愛知	125	1		1	126		
	三重	60			0	60		
	合計	2,173	2	5	-3	2,170		

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回	
近畿	滋賀	31			0	31	
	京都	47			0	47	
	大阪	105			0	105	
	兵庫	76			0	76	
	奈良	35			0	35	
	和歌山	35			0	35	
	中国	鳥取	15			0	15
島根		22			0	22	
岡山		35			0	35	
広島		80			0	80	
山口		37			0	37	
四国		徳島	25			0	25
		香川	44			0	44
	愛媛	41			0	41	
	高知	22			0	22	
	九州	福岡	51			0	51
		佐賀	25			0	25
		長崎	18			0	18
熊本		25			0	25	
大分		20			0	20	
宮崎		25			0	25	
鹿児島		29			0	29	
沖縄	15			0	15		
合計	2,173	2	5	-3	2,170		

構成員登録取消企業一覽表

(5社)

令和5年11月7日現在
令和5年11月17日決定

都道府 県名	加 入 年月日	構成員 登録No.	受付年月日	構成員登録取消企業名	代表者名	取消理由	グレード	取消承認 年月日
1 宮 城 県	S55.5.31	04-015	R5.10.27	株式会社阿部鉄工所	阿部 元子	廃業	未	R5.11.17
2 宮 城 県	H4.1.28	04-080	R5.10.11	ヒラク興産株式会社	丹野 孝	会社合併の為	未	"
3 埼 玉 県	H5.7.2	11-220	R5.10.16	石井鉄工株式会社	関根 誠一	高齢で後継者が見つからない為	未	"
4 千 葉 県	H21.3.12	12-197	R5.10.16	小坂部工業株式会社	小坂部 恵一	鉄骨を扱う業務がない為	未	"
5 長 野 県	H1.11.28	20-171	R5.10.4	有限会社浦野	酒井 和浩	廃業	M	"

【理23-5-他2】

建築着工面積と鉄骨推定所要量推移

(国土交通省建築着工統計速報による)

2023年11月2日作成

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成16年度計		182,774	103.5	69,927	108.6	6,834	72.7	7,334,400	106.2
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度計		133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度計		131,078	98.5	50,048	98.7	1,464	52.5	5,078,000	97.5
2019(令和元)年度計		124,936	95.3	44,928	89.8	1,480	101.1	4,566,800	89.9
2020(令和2)年度計		114,114	91.3	40,218	89.5	1,878	126.9	4,115,700	90.1
2021(令和3)年度計		122,466	107.3	45,580	113.3	1,966	104.7	4,656,300	113.1
2022(令和4)年度	4月	11,250	106.8	4,031	104.0	294	245.0	417,800	106.1
	5月	9,704	93.1	3,414	88.1	301	278.7	356,450	90.7
	6月	11,045	101.8	4,247	103.0	130	74.3	431,200	102.4
	7月	11,248	105.5	4,349	117.5	246	225.7	447,200	119.1
	8月	10,418	109.2	3,501	108.6	127	171.6	356,450	109.3
	9月	9,682	97.3	3,216	93.8	74	41.3	325,300	92.5
	10月	9,902	81.9	3,452	65.0	214	97.3	355,900	65.7
	11月	9,568	94.5	3,456	99.8	160	113.5	353,600	100.0
	12月	8,967	84.2	3,186	74.5	143	39.3	325,750	73.1
	1月	9,278	107.6	2,990	86.0	403	277.9	319,150	89.9
	2月	9,016	97.8	3,432	103.6	58	25.2	346,100	100.9
	3月	8,598	87.8	2,672	76.1	225	222.8	278,450	78.1
年度計		118,676	96.9	41,946	92.0	2,375	120.8	4,313,350	92.6
2023(令和5)年度	4月	10,298	91.5	3,912	97.0	158	53.7	399,100	95.5
	5月	8,994	92.7	2,874	84.2	150	49.8	294,900	82.7
	6月	9,177	83.1	2,993	70.5	222	170.8	310,400	72.0
	7月	9,261	82.3	3,137	72.1	218	88.6	324,600	72.6
	8月	9,311	89.4	2,905	83.0	160	126.0	298,500	83.7
	9月	9,200	95.0	3,201	99.5	104	140.5	325,300	100.0
	10月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	11月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
年度計		56,241	88.8	19,022	83.6	1,012	86.3	1,952,800	83.7

(単位) 面積 1,000㎡
前年同期比 %

(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 ㎡×100kg
鉄骨鉄筋造 ㎡×50kg

【 理23-5-他3 】

2023(令和5)年度 主要会議日程表

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																	
4	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
5	7	8	9	10	11	12	13	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
9	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							
11	5	6	7	8	9	10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

2023.11.7 現在
 □ ↓ 夏期・年末年始 休日
 ◊ ↓ 振替休日
 ◊ ↓ 休日出勤

開催年月日	三役会	理事会	総会	全国建設業 事務局 委員会	委員会	その他	備考
2023年 (令和5年)	4月7日 金 12:00			15:00 ※		16:30 懇親会	※全国事務局局長会議 12:00 全鉄評取締役会
	5月16日 日 9:00						※決算・事業報告・総会招集
	5月23日 日 10:30	14:00 ※				17:00 懇親会	14:00 全鉄評株主総会
	6月16日 日 9:30	11:30	15:00				
	7月4日 日 15:00						
	7月11日 日 10:30	14:00				14:00 創立50周年記念式典 15:30 祝賀会	
	7月12日 日 水						
	8月25日 日 木					11:30 技術審議会	
	9月12日 日 火	14:00					
	9月28日 日 木	10:00				15:00 賛助会員との懇談会	16:45 賛助会員との懇親会
	10月18日 日 水	14:30					12:00 全鉄評取締役会
	11月7日 日 火	14:00					
	11月17日 日 金	12:00	15:00 ※			17:30 懇親会	※移動理事会
	12月14日 日 木						12:00 全鉄評取締役会
2024年 (令和6年)	1月15日 日 金	14:00				18:00 事務局職員との懇親会	※全国理事長会
	1月19日 日 金	9:30	12:00	14:30 ※		16:00 新年賀詞交歓会	
	2月13日 日 火	14:00					
	2月20日 日 火	15:00					
	2月21日 日 水		9:00			13:00 青年部会との意見交換会	16:00 青年部会との懇親会
	3月12日 日 火	14:30					12:00 全鉄評取締役会
	3月19日 日 火	10:30	14:00				

【青年部会】
 総会・会長会議：2023年5月13日(土) 大阪

【青年部会】
 2024(令和6)年度予定
 三役会(12:00) 全国事務局局長会議(15:00) 懇親会(16:30)
 三役会(14:30) 参考:全鉄評取締役会(12:00)
 2024年5月21日(火) 理事會(14:00)
 三役会(9:30) 理庫会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00)
 参考:全鉄評株主総会(14:00)

その他

※ = 変更箇所

【 理23-5-他4 】

< 北海道支部 > 状況報告書

2023年(令和5年) 9月分

(A)

提出日 令和5年10月25日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・ 5日(火) 三役会・役員会 ・ 19日(火) 月例会	・ 7日(木) 東北積算業務委員会・H部会との交流会議 (札幌開催)
函館	・ 8日(金) 例会、納涼会	
室苦小樽		
旭川	・ 11日(月) 営業会議 4社	
北見	・ 21日(木) 道東三地区会議(釧路開催) ・ 26日(火) 委員会(例会)	
帯広	・ 21日(木) 道東三地区会議(釧路開催)	
釧路	・ 21日(木) 道東三地区会議(釧路開催)	

(B)

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	2 ~ 9	1 ~ 5	1 ~ 3	90 ~ 100			○			
函館	3	3	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
室苦小樽	5 ~ 9	1 ~ 3	1 ~ 2	100 ~ 110		○				
旭川	12	3 ~ 6	/	70 ~ 90			○			
北見	/	2 ~ 6	/	90 ~ 100			○			
帯広	2 ~ 8	1 ~ 5	1	100			○			
釧路	3	3 ~ 7	/	100		○				

(C)

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積み及び工場稼働率は各グレードとも前月とほぼ変わりなし。見積りは「少ない」が多く、前月と変わらず19社59%。「同じ」が13社41%。相変わらず新規・中小物件の見積りが少ないとのコメントが多い。工程ズレ・図面承認の遅れに苦慮している。共同積算:1-9月 64,544t 平年比63% 前年比101%
函館	・各会員とも、先月と変わらず稼働率は高めで推移しているが、年末以降の手持ち及び見積り量は少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・大型案件の引合いが増えてきているところもあるようだが、まだ少ない状況。地元企業の案件は、公共案件を含め依然低迷している。
旭川	・Mグレードの見通しについて、稼働率が下がってきている工場が増えているが、12月頃までは確保している。しかし量は少ない。また、うち1社は他地区の応援で3月頃までであるが量は少ない。Hグレードは11月頃の山が現場の遅れにより12月、1月へと工程が後ろにずれ込んでいるため、来春先に向けて工事が重なる状況。
北見	・鋼材関係の単価は、大方現状維持で推移するものと思われるが、建築費が合わずに延期又は中止となる物件が発生している。網走管内には特に目立った物件もなく、小型物件で推移することと思われる。
帯広	・各社、先月から手持ち・稼働率に大きく変わりはないが、見積りが少ない状況は変わりなく、今後冬期間へ向けての見通しは暗い。
釧路	・各社、稼働率は高い状態で推移している。しかし、11月、12月には一旦稼働率が下がる見込み。

＜ 北海道支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年) 10月分

提出日 令和5年11月7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・2日(火) 三役会・役員会	(会議等) ・19日(木) 第5回役員会・北海道支部共済推進会議 (その他) ・13日(金) 性能評価工場審査(中間受付分 1工場) ・24日(火) 性能評価工場審査(前期延期分 1工場)
函館	・14日(土) パークゴルフ大会・懇親会	
室苦小樽		
旭川	・9日(月) 営業会議 4社	
北見	・23日(月) 委員会(例会)	
帯広	・30日(月) 例会	
釧路	・30日(月) 例会	

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	2 ~ 9	1 ~ 3	1 ~ 3	75 ~ 110			○			
函館	4	3	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
室苦小樽	5 ~ 9	1 ~ 3	1 ~ 2	100 ~ 110		○				
旭川	12	1 ~ 5	/	50 ~ 90			○			
北見	/	2 ~ 5	/	80 ~ 90			○			
帯広	2 ~ 8	1 ~ 4	1	100			○			
釧路	3	2 ~ 7	/	70			○			

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積み及び工場稼働率は各グレードを通じて若干低下傾向となった。見積りは相変わらず「少ない」が多く17社で55%となっており、「同じ」が12社39%。ただ最近数ヶ月間ゼロだった「多い」が2社(8%)となった。新規・中小物件の見積りが少ないとのコメント及び工程ズレ・図面承認の遅れに苦慮しているコメントが多いが、見積り依頼が少しずつ増えているというコメントも数件出てきた。共同積算:1-10月 75,704t 平年比67% 前年比95%
函館	・各会員とも、年内の稼働率は高いが、年明けの手持ち及び見積り量は少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・大型・中型案件の引合いは出てきている。多くは5月～7月の建方に集中している状況。地元企業の案件は、公共案件を含め依然として低迷した状況が続いている。
旭川	・Mグレードの見通しは、一般的に稼働率がかなり下がってきており12月前半頃までの確保。1月以降、量は少ないが3月まで確保している会社が2社、春先の仕事を前倒しで考えている会社が1社。Hグレードは11月頃の山が現場の遅れにより12月、1月へと工程がずれ込んでいるため、来春先に向けて工事が重なる状況。
北見	・冬場の加工に向けた発注物件はほとんどない状況で、長い冬になりそうである。
帯広	・バラつきはあるものの、各社高稼働で推移している。見積りも多少増えているが、全体的には少ない状況。
釧路	・各社、あと1ヶ月程度で工場の空きが出てきそうな状況。その後も仕事が少なくなる見込み。

<東北支部> 状 況 報 告 書
2023年（令和5年）9月分

(A)

提出日 令和5年10月2日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○9/12～13 工場見学会（@札幌） ○9/20 積算業務担当者会議	○9/6～7 東北鉄構連経営近代化委員会・北海道支部交流会（札幌）
岩手県	○9/13 県南支部会 ○9/20 令和5年度後期性能評価申請書記入説明会 ○9/21 盛岡支部会	
宮城県	○9/13 鉄骨製作管理技術者試験対策講習会、宮城県建団連定例理事会 ○9/19 営業担当者会議、役員会、理事会、顧問を交えての懇談会	
秋田県	○9/21～22 鉄骨製作管理技術者講習会 ○9/26 営業担当者会議	
山形県	○9/20 (仮)情報広場 研修会 ○9/26 三役会、役員及び庄内支部会員合同会議 ○9/29 青年部 福島県青年部との交流会 ○9/30 青年部 東北6県対抗ゴルフコンペ	
福島県	○9/9,16 実践建築設計3次元CAD技術講習会 ○9/15 第4回青年部役員会、組合創立50周年記念行事 ○9/27 第3回営業責任者会議 ○9/29,30 青年部交流会（山形県青年部）	

(B)

都道府県	①手持ち工事量（ヵ月）			②稼働率（%）	③見積物件の傾向			④工場加工費（千円）		
	H	M	R・J	稼働率（%）	多い	普通	少ない	S造 (H+H)	S造 (コラムH)	SRC造
青森県	3～25	3～8	1～4	70～120			○			
岩手県	5～10	2～7	1～2	70～110			○			
宮城県	6～17	3～6	1～3	70～100			○			
秋田県	6～7	3～5	2.5～4	70～130			○			
山形県	3～12	1～10	1～6	90～100		○				
福島県	5～8	2～12	1～4	80～120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	地元見積物件数は引続き低調ながら、県外物件の製作協力等、各社山積みを手早く調整して、稼働率・仕事量は高水準を維持している。価格は、材料値上がり分はある程度転嫁できてきたが、今後の運賃問題や人件費をはじめ上昇した必要経費等、来年以降の単価交渉は更に厳しくなると不安視する声広がっている状況。
岩手県	工場稼働率・手持ち工事量は引き続き高水準を維持しているが、工場加工費についてはやや低下傾向。見積物件数は相変わらず極めて低調で、来年まで継続するのではないかと危惧している。材料費は落ち着いているものの先行き不透明であり不安要素。鉄骨落下事故等踏まえて、安全作業の徹底を呼び掛け。
宮城県	先月と比較しても大きな変化は見られず。下半期の需要増への期待も薄い。他工場からの外注で稼働している工場も多く、この状況が長くなるほど仕事量への不安が増すばかりに思える。
秋田県	若干見積もりは増えたものの、図面が遅れて仕事が予定通りに進まない。また、稼働率は高いが人手不足が深刻で困っている工場が多い。物件自体は来春まで持っているという声が多い。
山形県	見積物件数は依然として低調であり、今後の仕事量確保が心配される。
福島県	各グレード共、比較的高い稼働率が続いています。今後全ての業者で残業時間規制が強化され、高鍛冶工確保難、運搬車両の規制強化も顕在化していきます。今まで出来ていた事に今後かなり変化が出るものと思われれます。適正な請負金額、製作時間と現場工程期間の確保が重要になると思います。

＜東北支部＞ 状 況 報 告 書

2023 年（令和 5 年）10 月分

(A)

提出日 令和 5 年 11 月 1 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○10/19 積算業務担当者会議	○10/17 東北鉄構工業連合会経営近代化委員会 (仙台) ○10/19~20 次世代経営研修(仙台) ○10/31 10 月期定例役員会、全国鐵構工業企業 年金基金説明会(仙台)
岩手県	○10/12 鉄構組合・溶接協会合同親善ゴルフ大会 ○10/18 県南支部会 ○10/23 盛岡支部会	
宮城県	○10/19 宮城県建団連定例理事会 ○10/22 第 33 回 K・DAY	
秋田県	○10/12~14 青年部会北海道研修 ○10/24 営業担当者会議	
山形県	○10/12 超音波探傷技術研究会役員会 ○10/13~14 「鉄骨製作管理技術者」受験準備講習会	
福島県	○10/14,21 実践建築設計 3 次元 CAD 技術講習会 ○10/17 性能評価工場審査(1社) ○10/19 青年部第 5 回役員会 ○10/21 青年部ゴルフコンペ・交流会	

(B)

都道府県	①手持ち工事量(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	4~24	3~8	1~4	70 ~ 120			○			
岩手県	4~9	2~8	1~2	80 ~ 105			○			
宮城県	6~16	3~6	1~4	70 ~ 100			○			
秋田県	6~6	3~4	2~4	100 ~ 120			○			
山形県	3~12	1~9	1~4	90 ~ 100		○				
福島県	5~8	2~12	0.5~4	50 ~ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	工事量・稼働率は、高水準のまま横ばいで推移。見積物件は、まだしばらく低調が続くとみられ、価格については、鋼材のほか副資材の値上がり分も交渉時に転嫁してもらうよう、原価意識を再度呼び掛け合っている。
岩手県	工場稼働率・手持ち工事量は引き続き高水準を維持しており、工場加工費については横ばい。見積物件数は相変わらず極めて低調で、年明け以降の工事量の減少を見込む声が増大。材料費は落ち着いているが下がることは無いと思われ、見積の際の価格調査をしっかりと行うよう呼びかけている。
宮城県	見積もり物件数は若干増えつつあるものの、例年に比較すればまだ少ない状態と思える。他 FAB の手伝い等で稼働率はそこそこ維持しているものの、先行きは不安感が大きいものとみる。
秋田県	手持ち工事量、稼働率に大きな変動はないが、見積もり件数は減少してきている。加工費の値戻しも出来ておらず厳しい状況が続いている。
山形県	全般に前月とほぼ同様な傾向を維持しているようだ。延期や工程のずれがあり、予定通り山積み消化できていない状況である。
福島県	受注後の施工図チェックの遅延に対して、納期厳守というケースが非常に多く聞かれます。また、工事延期や中止といったことも聞かれますので、予定していてもいきなり空いてしまうこともあるようです。見積が少ないうえ、各経費は値上げ傾向が続いているので、特に地元中小物件では値段を下げず利益を残せるように、また見積条件を守るような対策が必要かと思えます。

＜ 関東支部 ＞ 状況報告書

2023年(令和5年) 9月分

提出日 令和5年10月6日

(A)

都道府県	①全構協推進事業の現状	②支部活動状況	
東京都	1日 三役会 21日 理事会、M部会 30日 鉄骨製作管理技術者受験準備講習会	関東支部活動・行事等	
千葉県	1日(金)青年部役員会 4日(月)、6日(水)大臣認定説明会 29日(金)支部長会、三役・支部長会 理事会		
神奈川県	3日 青年部会BBQ大会、14日 事業運営委員会、22日 総務委員会・役員会		
茨城県	2、3日 UT学科講習会 9～10日 ガス技能講習(ベトナムご対応) 12、13日 実習生事業監査 16日 UT学科補修 23日 ボーリング大会 27日 JSCA茨城との合同視察研修(宇都宮大学・横浜ガルバー)		
埼玉県	2日(土)～4日(月) 青年部会北海道研修旅行 6日(水) 総務委員会 9日(土) 第22回展示販売会 13日(水) 組合理事会 22日(金) 性能評価研修会 26日(火) PAWG(フェーズドアレイ実証実験)、関東支部会 28日(木) 県北支部会		
栃木県	9/14 定例理事会、9/21 青年部役員会		
群馬県	9/5組合三役と自民党県議団との政調懇談会、9/14西毛支部会、9/15青年部会研修会、9/21三役会・役員会、9/27東毛支部会		
長野県	9日(土)UT学科講習会、15日(金)青年部全体会議及び研修事業、19日(火)記念誌打ち合わせ、21日(木)常任理事会		
山梨県	8日 理事会 25日 青年部会 27日 教育技術委員会 28日 溶接安全委員会 [講習] アーク溶接特別教育講習 ・一般を対象 7日～9日 ・堀之内訓練所 19日～20日		[その他] 12日 山梨県中小企業等事務連絡会創立50周年 15日 (一社)山梨県鉄構溶接協会創立15周年 16日 9月度JIS検定 29日 関プロ役員会 山梨にて実施
新潟県	9/8.13 工場審査事前サポート 9/12.14.19工場審査事前説明会(8社) 9/22.23鉄骨製作管理技術者講習会(42名) 9/26親睦ゴルフコンペ		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
東京都	5～15	3～8	2～3	70～100		○				
千葉県	13.0	1～4	1.5	60～100		○				
神奈川県	10～13	2～6.5	1.0	80～100		○				
茨城県	7～20	4～8	3	80～100		○				
埼玉県	3～11	1～14	1～5	60～100			○			
栃木県	12	3～12	1～7	90～120		○				
群馬県	6～14	4～10	4	75～100			○			
長野県	6～12	1～6	1.5～4	60～120			○			
山梨県	5～12	0.8～12	2～3	70～115			○			
新潟県	10～12	3～7	2～4	90～100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
東京都	前月同様、鋼材等の材料価格には殆ど変化はなく、依然として材料費、販管費の値上がり分の受注価格への転嫁が思わしくない。また、図面の承認遅れ等によって生じる工程ズレや短納期対応にも苦慮している。なお、見積り件数は増えつつあり、再来年の見積り依頼が来ているところがある。
千葉県	仕事の効率化を図れるような環境作りの提言や研修を行ってほしい。指値の金額が厳しい。運賃が上がっている。各社の受注状況などが知りたい。
神奈川県	今年度の需要量が少なくなるとの数字も発表されており、数字を感じられる様になってきました。直近の工事が延びてしまい仲間内での仕事が無いか問い合わせをしている組合員も出てきております。
茨城県	見積の件数は多いがなかなか仕事に結びつかないといった声もあり、益々厳しい環境となってきた感じをうけています。 ・地場案件が少なく、加工費は相変わらず安値。 ・すこし見積り件数が出てきた。
埼玉県	後継者問題や人手不足は深刻で、その打開のため休日を増やすや、中には完全週休2日制をとる組合員も1社出てきた。また、福利厚生を充実させるや、男性中心の職場環境から女性に配慮した更衣室やトイレの設置など取り組んでいる組合員もいるが、これらはいずれもコストアップに繋がりが、その成果が現れる保証はないので中小規模の工場では皆ができるかと言うと難しい側面を持っている。ただ、何もしないと廃業やM&Aになる可能性もあり生き残りをかけた戦いは始まっているので、全構協としても人手不足の解消施策を全力で行ってほしい。
栃木県	・「景気が不安定の証」現場での盗難事件、近隣での強盗事件が増えている。 ・設備の老朽化、社員の高齢化に苦慮している。 ・工期不足の物件が多く対応出来ない物件がある。 ・GCの付帯業者選定が遅いため、業者図面が来る頃にはスケジュールがタイトになっている。 ・法律改正への対応が会社更に個人が真剣に取り組む状況にどう付き合っていくかが懸念される。
群馬県	現場の着工遅れや工程の遅延が散見され、工場の山積みの調整が難しくなっている。また相変わらず図面決定が遅いが、鋼材価格は少し下がってきた。
長野県	・見積りでは難しい建物、検査の大変な建物(対物)が増えています。 ・「溶接工を使ってくれないか？」という問い合わせが2件ほどありました。物件が少なくなっているのでは、と思います。 ・来年、夏以降の引き合いが数件来始めています。 ・東京駅前の大事故やその前の静岡の橋梁事故等、大きな事故やビル解体等残念な話題が多い。できればそれぞれ詳細な状況を公開して頂き今後活かされればと思う。
山梨県	15日は当協会創立15周年記念を実施。式典会場にご列席戴き誠にありがとうございました。 全国労働衛生週間、労働災害防止、化学物質規制の見直し等を受け、労基による工場への視察が増えてきている。 特に管理体制や健康診断、環境測定、クレーン等の始業点検、雇用に關する質疑内容が多い。
新潟県	受注価格は若干の上昇がみられるが、鋼材の価格上昇分を十分に転嫁できず収益状況は厳しい。 関東圏の物件は堅調だが地元物件がなく、小規模工場では手持ち工事量に二極化が見られる。

＜ 関東支部 ＞ 状況報告書

2023年(令和5年) 10月分

提出日 令和5年11月7日

(A)

都道府県	①全構協推進事業の現状	②支部活動状況
東京都	1日 鉄骨製作管理技術者受験準備講習会 10日 西地区会 13日 東地区会 14日 東構塾 19日 理事会、M部会	関東支部活動・行事等 10/3～4 次世代経営研修会(アワーズイン版急) 10/26～27 第3回関東支部会(長野県・笹屋ホテル)
千葉県	6日(金)青年部ゴルフコンペ 11日(水)建産連事務局長会議 20日(金)青年部役員会 28日(土)固形エンドタブ検定	
神奈川県	2日 青年部役員会、12日 事業運営委員会、19日 総務委員会・教育技術委員会・役員会	
茨城県	20日 第4回理事会 28日 東関東非破壊検査研究会研究発表会	
埼玉県	4日(水) 総務委員会 11日(水) 組合理事会 14日(土)～15日(日) 三峯神社安全祈願 19日(木) 青年部役員会 20日(金) 組合会計監査 22日(日)～24日(火) 県北支部研修旅行 25日(水) 埼玉県建設産業担い手確保・育成ネットワーク幹事会 26日(木) 県西支部会、県南支部会	
栃木県	10/6 性能評価サポート(1社)、10/11 性能評価審査(1社)、 10/12 定例理事会、10/27 青年部運営委員会、青年部技術委員会	
群馬県	10/10フィットテスト開始、10/19青年部全員協議会、10/23サポート委員会	
長野県	5日(木)性能評価研修会、12日(木)青年部役員会、19日(木)行政との懇談会及び工場見学会、 21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)JT実技講習会、26日(木)関東支部会	
山梨県	4日 全国溶接競技会 立合いリハーサル 19日 アーク溶接特別教育(～21日一般対象) 5日 山梨県安全衛生大会(県立文学館) 22日 親睦ゴルフ(28名参加) 10日 理事会 21日 青年部会 14日 溶接JIS検定 24日 教育技術委員会 18日 安全点検パトロール(4工場) 25日 経営近代化委員会 溶接安全委員会 工場審査説明会(3工場) 3日(H)、4日(H)、11日(M)	
新潟県	10/5 工場審査事前サポート・10/6正副理事会・10/11 工場審査 10/17第2回総務委員会 10/24第4回理事会 10/27.28超音波検査技術者(実技)講習会	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
東京都	5～16	3～8	2～3	80～110		○				
千葉県	12～14	1～4	4.0	50～100			○			
神奈川県	9.5～13	2～8.1	3.0	80～100		○				
茨城県	7～20	4～8	3	80～100		○				
埼玉県	3～10	1～13	2～4	60～100		○				
栃木県	12	3～14	1～4	60～120		○				
群馬県	6～14	4～7	1～3	60～100		○				
長野県	6～12	1～10		70～110			○			
山梨県	5～12	0.8～11	2～3	70～105			○			
新潟県	10～12	3～7	2～4	90～100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
東京都	前月同様、鋼材等の材料価格に変動は見られない。物価高騰分の価格転嫁が進んでおらず、今後も人件費、運送費、諸資材価格の上昇が想定されるなか、適正な加工費の確保に苦慮している。また、図面の承認遅れ等による工期、工程ズレなどで契約が適正に履行できないなどの支障が生じているファブがある。なお、見積り件数は増えつつあり、Hグレードを中心に来夏、来秋、更には再来年の見積り依頼が来ているところがあるが、中小案件の出件は少ない。
千葉県	相変わらず新築の重量鉄骨が薄い。その他軽量新築プラント等はある。2024年問題での各社の対応を知りたい。仕事は横ばい。地方の中小案件が極端に少なくなっている。
神奈川県	全体的に稼働率が低い同業が多い印象です。他県では年明け春先から3か月もの製作期間の物件が中止となり、山積み確保で他社の応援仕事を探して凌ぐといった所もありました。1年以上先の物件見積りは多い印象。中小物件年明け4月以降の物件では民間工事でも完全に土日閉所という見積り条件を記載した依頼が増えてきており、現場の対応も変わってくる事と、益々の図面決定の遅れを危惧しています。
茨城県	・来年に向けて地場案件の見積りが増えてきている。それでも地場案件が少ないので、単価が安くなっている。商社案件は一年先まで、問い合わせが来ている。 ・相変わらず、200t未満程度の鉄骨は少ない、景気動向に対して明るい話題がありません。
埼玉県	昨今、組合員の従業員のみならず、その家族までコロナやインフルエンザに罹る人や、それ以外の病気で家族が長期療養となるなどの事案が増えている。ここ埼玉県は核家族化が進んでおり、その場合は看病や子供の送り迎えなどを従業員がせねばならず、そのことによる遅刻、早退、時間短縮就労等で工場も配慮しているが、片や工場の生産性の低下が免れず、従業員が少ない企業は深刻な問題となっている。
栃木県	・消耗品、副資材の単価が値上がりしている。 ・最近の物件は分科会と称して、設計・現場・FABとで1～2週間間隔で打ち合わせや質疑回答の場をWEBで設けてくれるので図面のFIXが早くなったと思う。 ・小規模FABでは手持量が少なくなっているところが見られる。
群馬県	鋼材価格が徐々に下がってきているようだ。しかし見積り提出後の返事が遅く、先の仕事の中々決まっていけない。反面、見積り数においては、来以降の引き合いが増えてきている。
長野県	・仕事量が減と言われている。 ・延期、中止物件多い。来年の状況あまり良くない。 ・概算見積りがとにかく多い。
山梨県	2024年問題は直面する物流業界だけではなく、当業界でも避けては通れない話でもある。 また、当業界は物流会社に対する発荷主・着荷主となり待ち時間に対して法令に接触する恐れもあり、短縮化に向けたサプライチェーンの見直しに協力してゆく必要もある。 2024年問題に関し、新年会前の講習会を計画する。 化学物質規制が厳しくなり、化学物質管理者の育成を協会全体で実施してゆくこととした。
新潟県	受注価格は若干の上昇がみられるが、鋼材の価格上昇分を十分に転嫁できず収益状況は厳しい。 関東圏の物件は堅調だが地元物件がなく、小規模工場では手持ち工事量に二極化が見られる。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2023年（令和5年）9月分

(A)

提出日 令和5年10月12日

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	19日(火) 技術・品質サポート(Hグレード1社) 21日(木) 技術・品質サポート (Rグレード1社) 22日(金) 全国R・Jグレード部会連絡会 26日(火) 技術・品質サポート (Rグレード1社) 28日(木) 組合員と賛助会員との懇親交流会	20日(水) 全構協運営委員会(WEB) 28日(木) 全構協第4回理事会(東京) 29日(金) 北陸ブロック青年部会役員会(福井県) 29日(金) 全構協技術委員会
石川県	3日(日) 第12回鉄骨組合ゴルフコンペ 5日(火) 第3回青年部役員会 12日(火) 第2回金沢支部会 20日(水) 第4回三役会、第4回理事会	
福井県	14日 定例三役会・理事会 19日 認定部会役員会・例会 19日 技術委員会「インボイス制度勉強会」 22日 青年部会例会 22日 企業説明会(ポリテクセンタータイアップ事業) 26日 鉄骨製作管理技術者講習会1・2級(～27日)	

(B)

都道府県	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率(%)	③ 見積物件の傾向			④ 工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～12	2～4	1～3	70～100			○			
石川県	8～12	2～4	1～2	80～110			○			
福井県	7～12	3～7	1～2	90～120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	状況は先月とあまり変わらないが、地場物件は見積が少なくなりつつあり、冬場に向かったの工事量と価格の下落が心配である。大都市圏の大型物件は、近付く2024年問題が気になりつつある。運賃はファブの請負範囲で有るが、ファブで采配出来ないことが多いので、今後オントラック(前々からの課題)での契約を増やしていかなければならない。
石川県	各グレードの稼働率については先月とあまり変わらない様子。企業間にばらつきはあるが、中小物件が少ない分、MやRグレードの工事量は十分とは言えない。SDGsと称して鉄骨造から、木造へ構造変更する物件も見受けられる。鋼材の価格についてはある程度の理解は得られてきているものの、副資材や、光熱費の上昇分についてはまだまだの様子。状況の変化を適格につかみながら、価格転嫁に努めていきたい。
福井県	・各グレード共に稼働率は比較的安定しているが、新たな物件の見積引合いが減少傾向にある。 ・人件費材料費等の高騰が影響してか、入札不調工事の再入札に相当な時間がかかっている様子。 ・コロナ禍がぶり返して生産計画に影響が出ている工場が見られるようになった。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2023年（令和5年）10月分

(A)

提出日 令和5年11月6日

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	25日(水) 青年部会・10月度役員会	26日(木) 全構協第4回運営委員会(東京)
石川県	2日(月) 第4回青年部役員会 19日(木) 第5回三役会、第5回理事会 19日(木) 組合員・賛助会員との交流懇親会 21日(土) 鉄骨製作管理技術者学科試験(金沢)	
福井県	12日 共同積算委員会 13日 自由研削といし特別教育開催 19日 認定部会定例役員会・例会(クレーン構造講習会) 20日 定例三役会・役員会 22日 県青年中央会フェスに参加出展 24日 総務委員会 25日 中小企業団体中央会福井県大会に参加 28日 県鋼材販売事業(協)との合同親善ゴルフ開催	

(B)

都道府県	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率(%)	③ 見積物件の傾向			④ 工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～12	3～5	1～3	80～100		○				
石川県	8～12	3～5	1～2	80～100			○			
福井県	8～12	3～7	1～2	90～120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	図面決定の遅れが大きな問題になっている。今に始まった問題ではないが、一向に改善されない。人材不足と担当者のレベルの低下が要因として挙げられているが、すぐに解決できる問題でないが、ファブとしては早急に何とかしてもらいたい。設計変更などで、ファブはゼネコンの無理な要求を呑んできたが、もはや対応する余力は無く、適正な価格と納期でゼネコンと交渉していかなければ死活問題となりかねない。
石川県	大型物件は堅調に動いているので上位グレードについては先月と変わりはないが、MグレードRグレードについては現状は全体的に稼働率が高いが、見積は少ない。中小物件が少ないので価格競争も激しくなっていることから加工単価も下降気味。仕事量については年内は確保できているが、年明け以降は見えてこないのが不安な状態の企業も見られる。設計図面の遅延やSDGsの一環としてS造→W造への設計変更の物件もみられる。副資材やエネルギー高騰などの価格転嫁が今後も重要課題になると思われる。応援やシェアなどで仕事量の確保に努め、安値受注にならないよう協力していきたい。
福井県	・働き方改革が一層徹底されるにつれて受注量と生産量のアンバランスが生じてきていて、特に上位グレードでは人員配置に苦慮している。 ・一方で、下位グレードにおいては年末～年度末にかけての受注量確保に不安の声が聞こえるようになってきた。 ・依然として解消されない図面承認の遅れ問題に加えて、2024年問題に対する懸念の声が多く聞かれるようになってきている。 ・安定供給と生産効率向上のために、ファブ同士での協力体制強化と情報交換が一層求められる。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年) 9月分

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中部支部活動・行事等
岐阜県	22 日 (金) 理事会	8 日 (金) 次世代経営研修説明会 出席 12 日 (火) 全構協:三役会 出席 16 日 (土) 青年部中部BC役員会
静岡県	22 日 (金) 三役会 27 日 (水) 役員会	26 日 (火) 鉄骨製作管理技術者 27 日 (水) 受験準備講習会 28 日 (木) 全構協:三役会・理事会 出席
愛知県	1 日 (金) 名古屋北支部会 5 日 (火) 女性部会 13 日 (水) 青年部会 14 日 (木) 理事長選出ルール策定委員会 創立50周年準備委員会 15 日 (金) 西三河支部会 19 日 (火) H部会 22 日 (金) 性能評価申請説明会	
三重県	8 日 (金) } 青年部家族会 9 日 (土) } 12 日 (火) 青年部会 19 日 (月) 第5回理事会	

提出日 2023年(令和5年) 10月 4日

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3~10	3~7	2~6	90 ~ 130		○				
静岡県	7~12	3~7	1~4	70 ~ 120		○				
愛知県	9~13	3~15	2~3	30 ~ 120			○			
三重県	9~12	2~7	1~5	90 ~ 115		○				

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	・鉄骨も発注され建方も済んでいる現場において、工事途中でキャンセルされるという物件が出た。
静岡県	・大型物件が中心に流れているが、多少、中型物件も出てきた。地場ゼネコンでは、安値要求が厳しいと聞いているので自社に合った加工費は確保するよう努めてほしい。 ・工場の稼働率が高い状況が続いている。今後の見通しは悪くないと思われる。先の計画を立てて平準化を図りたい。 ・関東方面が騒がしく、来年再来年の案件がきている。見積数は変わらないが、金額より先に加工ラインを抑えに行くパターンが多発していてしばらく続くと思われる。 ・現状は9月中旬まではかなり山積みが高い。今年度末まではそれなりの仕事量を予定している。
愛知県	・鋼材単価は落ち着いてきましたが、溶接ワイヤや副資材等の単価が上がり続けていますので工事受注時にはその分を請求する様にしています。 ・秋風が少しずつ涼しく感じるようになり、見積り依頼も少なくな感じます。これからは紅葉の様にきれいな色がつくような工事受注があれば良いと感じます。 ・年明けからの見通しは今からになると思いますが、見積り依頼は少しずつあります。 ・最近の鉄骨・鉄骨業界は良くない出来事が続いているためか、不明だが見積り依頼が減ってきています。何万トクラスの大型プロジェクトがいつまでも続かないと考えています。 ・八重洲の事故があり、原因がはっきりしておらず関東のゼネコンとの打ち合わせで吊りボルトや吊りピースの見直しについての話が出ている。正確な事故原因の情報を周知して欲しい。 ・2024年問題を軽く考えている傾向がある、業界が一丸となって取り組む問題だと思ふ。すぐにもアクションを起こさないといけない事案である。
三重県	・鋼材価格は若干値下がりしてきているが、新規物件の受注が伸びてきていない。案件情報はあるものの具体的に進まず、メーカー曰く、今期はこのままの状況で推移するであろうとのこと。 ・依然電気代等その他経費の高騰が続き、収益面は厳しい状況が続いている。 ・大阪万博の期待感はまだ低い。プレハブメーカーの独占市場になるのではないかとこの声がある。関西では鋼材の動きが悪いので、当地の材料業者が期間限定でセールを実施するといった情報も入っている。 ・三重県伊勢以南では今期公共工事の発注が少なく、当面工事量の停滞が予想される。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年) 10月分

(A)

提出日 2023年(令和5年) 10月 31日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等	中部支部活動・行事等	
岐阜県		18日(水)	全構協:三役会 出席
静岡県	23日(月) 三役会 日	20日(金)	全構協:運営委員会 出席
愛知県	3日(火) 女性部会 10日(火) 正副理事長会・理事会 青年部会 役員会 26日(木) 中央会:第72回中小企業団体愛知県大会 出席 30日(月) 理事長選出ルール策定委員会	24日(火)	中部支部会 全構協 三役との意見交換会
三重県	4日(水) 令和5年度後期性能評価事前説明会 10日(月) 青年部会 23日(月) 第6回理事会 23日(月) 第51・52期理事候補者会議 26日(木) 「新卒・若手採用」に関する講習会 30日(月) 工場審査サポート	26日(木)	全構協:運営委員会 出席

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3 ~ 11	3 ~ 11	1 ~ 7	60 ~ 120		○				
静岡県	8 ~ 12	2 ~ 8	1 ~ 7	70 ~ 120			○			
愛知県	10 ~ 12	3 ~ 6	2 ~ 3	50 ~ 120			○			
三重県	10 ~ 13	2 ~ 7	1 ~ 4	90 ~ 150		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の山が平準化してきたが、先行き寂しい状況。 ・受注の可能性が低い案件は、お断りしている状況。 ・状況としては良いとは言えないが、見積りは多い傾向にある。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・今年秋から来年夏くらいまでは、Hグレードを中心に山積みが高い状況が続くそうだが、秋以降の動きが未だ不透明な状況である。 ・東京案件、長期間工事物件の打診が目立っている。地場ゼネコンからの見積りは現在非常に少ない。来年、再来年の関東案件が山積みを埋めていく予想。 ・県内全体では山積みが低い傾向にあると思われる。これから年度末にかけてもあまり期待が持てない感じがする。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・受注物件の工程が大幅に変わる事により、山積みの凸凹が大きく発生して大残業、外注依頼が多くなり良くない状況が続いている。 ・大型工事も陰りが見えてきている。 ・市街化開発や大型工場などの大型物件(万トン級)の延期情報や中止情報を多数聞いている。 ・概算見積もりがいつもより多く感じます。それなりに仕事はありそうな感じはします。 ・年内の予定は埋まってきています。今からだと思いますが、来年の見積もりが少ない状況で少し不安を感じます。 ・中小物件の見積もり依頼が相変わらず少ない。単価の値崩れが懸念される。 ・鉄骨以外の物件は来年6月頃までである状況。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・来年3月以降の物件が薄いの以前と変わらない。新規物件案件は出るが具体的な進捗が鈍い。 ・依然電気代等の経費高騰が続いているが、価格転嫁が遅れており、収益環境は厳しい。 ・市場では年間550万トンの案件はあるが、今年度は400万トンを割るのではないかと噂されている。ただ今期に間に合わない案件が150万トンあるかどうかは不明。 ・ゼネコンは24年問題を見据え、キャパ一杯の受注を控え、調整している感がある。 ・いずれにしろ、2024年問題は来期以降の受注に影響を与え、業界環境は厳しくなりそうである。

< 全構協近畿支部 > 状況報告書

2023年(令和5年9月)

(A)

提出日 令和5年10月10日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	・9/13 理事会、認定工場部会、賛助会員PR会 ・9/14 滋賀職業能力短期大学生生徒企業研修実施 ・9/23 滋賀けんせつみらいフェスタ出展	<<第2回近畿支部会>> 9月26日(火) 14:00 ~ 16:00 鉄鋼会館(大阪)
京都府	・9/15 四役会 ・9/16 青年部中部地区との交流会 ・9/22 R会工場見学 富山 ・9/29 青年部滋賀県との交流会	
大阪府	9/7第2回運営共済事業委員会、9/13第2回技術委員会、9/20市内支部回、9/28北大阪支部会、9/29東大阪市部会	
兵庫県	・9/7 兵庫県議会自由民主党議員団 意見交換会	
奈良県	・9/4 第1回教育・認定事業委員会 ・9/19 懇親理事会 ・9/26 第2回共済・経営近代化委員会	
和歌山県	・9/25粉じん作業者特別教育講習会	

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
滋賀県	6 ~ 15	2 ~ 6	1 ~ 3	70 ~ 100		○				
京都府	9 ~ 12	3 ~ 7	1 ~ 4	60 ~ 120		○				
大阪府	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
兵庫県	8 ~ 16	3 ~ 8	1 ~ 4	70 ~ 100			○			
奈良県	~	4 ~ 9	1 ~ 4	~		○				
和歌山県	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	Hグレードは来年度物件見積りが多くなっている模様。Mグレードは足元から冬期に掛けての物件依頼は満足な件数ではない。中小規模の物件は未だ不透明。山積みに関しては工期の遅れが通常化しており置き場の少ない工場は先作りが出来ないため山積み調整が大変な状態。鋼材は在庫のたぐつき等で中品は若干安値購入は可能だが高炉材は高値安定価格となっている。見積り鋼材価格は高炉材価格を優先に行いたい。またインボイスも開始され細かい部分の取扱い情報など組合間で具体的に情報共有していきたい。
京都府	年内の仕事はあるが来年以降の見積りが少ない。見積物件は増えているが物価・資材が上がっている上、引合い状況は良くなく厳しい。新規物件が民間公共ともに少ない。計画から着工までが長く見通しが悪い。鋼材の高止まりで計画の取り止めも多い。元請け・サブコンも人手不足です。仕事は年内回り多くあると思いますが若い従業員の育成・会社規約(週休二日制)・資格の取得等を考えることが多くあります。年明けからの受注が不透明。
大阪府	足元の仕事はだいたいあり、各グレードともそこそこ忙しそうであるが、年末から年明けにかけてはかなりのバラツキがあり、仕事量は少ない模様で、特に中小案件が少ない状況。どうしても物件を取りたい商社やファブリーケーターは、値下げ競争を始めている。その一方で、ゼネコンにも工事長クラスの人員が不足しており、物件を取り控える傾向により、お目当ての物件が他へ流れることもある。大型物件は、コスト面で海外へ流れる傾向にあるので、高品質や工程遵守、低リスクを武器に国内生産を確保しなければならない。
兵庫県	各社地域により山積みのばらつきはありますが、おおむねHグレードは1年ぐらい物件を確保されています。中には1年半以上確保されている会社もあるみたいですが、Mグレード以下になると3か月から6か月程度と見積り案件及び引き合いも少ないとの事です。また、昨今は鋼材市況が若干弱いためゼネコン側も発注を控えている感じですが。(もう少し材料が下がると思っているみたいです)この様な状況の中、県内の駅前再開発工事もファブ業者選定の時期となり今後の動きに注目されるかと思えます。鋼材は前月同様に据え置きですが、高炉メーカーは断続的な値上げは変わらないとの事で需要と供給量に関係なく付加価値製品の需要を高めていくようです。コラムBCP納期も6か月程度に落ち着き、切板関係含む一次加工業者も短納期が多く先々の案件が少ないとの事です。
奈良県	・見積もり案件は少ないものの、来年冬(2月)ぐらいまでの仕事量は、確保出来ています。 ・仕事量に関しては多く出ています。また、万博案件の話も多少出ていますが、単価は上がらない状況。 ・各FABが競合する100t前後の物件に於いて、ゼネコン同士の価格競争が激しくなっている感じがします。
和歌山県	鋼材価格は、弱含みの状態ととなってきていますが、高炉メーカーの値上げの意向は変わらず、引き続き高値安定が続くと思われる。前月同様、中小物件が少なく工場稼働率も50~100%と格差が出てきています。このような状態で契約単価のアップも難しくなっている。しかし、若手人材を獲得するために働き方改革、賃金アップをしていかなければなりません。今、業界を上げて価格アップに取り組んでいく事が大事です。

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年10月)

(A)

提出日 令和5年11月6日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	・10/11 認定工場部会	≪講習会≫ ・鉄骨製作管理技術者 講習会 2級 : 10/4 ~ 10/5 1級 : 10/6 ~ 10/7 (大阪トヨペットビル)
京都府	・10/4 R会役員会 ・10/17 理事会 ・10/17 AW検定合同受験説明会 ・10/18・26 工場審査 ・10/28 南支部会	
大阪府	10/10南大阪支部会、10/18第3回定例理事会、10/26北大阪支部会、10/10.11.13中間期工場審査サポート(3社)、10/19.25.27中間期工場審査(3社)	
兵庫県	・10/5 R5年後期性能評価説明会 ・10/19 運営委員会 ・10/13 教育技術委員会 ・10/27 理事役員会	
奈良県	・特になし	
和歌山県	・10/2近代化委員会(竹島鉄工建設(株)Sケレト工場見学) ・10/5 後期性能評価勉強会	

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
滋賀県	6 ~ 14	2 ~ 6	1 ~ 3	80 ~ 100			○			
京都府	10 ~ 12	1 ~ 6	1 ~ 4	60 ~ 100			○			
大阪府	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
兵庫県	8 ~ 16	3 ~ 8	1 ~ 4	60 ~ 100			○			
奈良県	~	5 ~ 8	1 ~ 3	70 ~ 100			○			
和歌山県	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	足もとの山積み空きがある事業所が散見される。Hグレードは来年末までである程度の確保は出来ているもののスポットの空きが見られる。M・Rグレードの工場山積みは厳しく、また見積もり件数も少なくなっており価格競争が懸念される。施工側の設備投資の延長や中止も多く見られる中、人件費・エネルギー・働き方改革・物価高など安く受注できる要素が全く見当たらず苦慮している。一方で受注過多の事業所も見られるため、組合FAB間での外注製作調整の必要性を感じる。鋼材は各メーカーとも年明けからエネルギー価格の大幅上昇に伴い1~2段階の値上げをする模様で来年物件の鋼材費は注意が必要。
京都府	見積物件が減少している。年内、年明け迄は忙しいがその先の見通しがたたない。受注確定が見込めないのが心配。来年の物件の話はあるが加工賃がもっと上がらないとむやみに受注できない。来年の春ごろの建て方の大阪万博の引合いが多いです。見積は多いのですがなかなか決まらないので他社にまわってほしい。 (全体的な工事量としては少ないのかも)物価高により、工事量減。稼働率悪く費用の増加著しく厳しい経営環境が続く。どこも年末までの仕事は確保できているが春先から夏頃まで仕事量は少ない。
大阪府	工期の大幅変更で、月によって物件が重なって自社だけでは生産できなくなり、他社へ応援を頼んだり、また工場加工が空いてしまったりという状況が起こっている。受注のバランスを保ちたいものだが、豊富な受注、需要量は到底見込めないまま、受注競争に突入の予想。受注を見送るか、無理をして取るか、内容により前者を選ぶべきだが、その分我慢の時が続くと思われる。
兵庫県	仕事量はある程度あるみたいですが、各社グレード・地域により山積みのばらつきがあり物件によって施工範囲・建物規模が違うため一概に単価(金額)が高い安い判断が難しいですが、世の中これだけの多種多様な品種の物価上昇が続くと鉄骨単価も上げてもらわないと経営の死活問題になってきます。今、仕事が薄い業者は現状の単価より安く受注を行っているようで先々経営が危ぶまれる会社もあるとの事で、ファブの二極化となっているかと思えます。また輸送・人材不足・休日・残業規制、図面遅延等の問題もあり今まで当たり前のことが出来なくなる可能性もあります。昨年、大型プロジェクト案件で発生した品質、安全トラブルにより、検査関係等の書類も多く厳しくなっています。
奈良県	・来年春ぐらまでの、見積もり案件・仕事量は確保出来ているも、単価はあまり上がっていない状況です。 ・図面工程がスムーズに進まず、工場の生産工程に多大な影響が出るケースが多いです。各方面での人材不足の問題が顕在化してきているように思います。 ・人材確保が大きな課題となっている。魅力ある職場環境作りに注力していきたい。 ・中小物件の見積はやや少ないです。30t程度の小物件については、木造での設計も増えてきました。
和歌山県	各社、年内の仕事はだいたいあるようですが、年明けからの引き合い案件及び見積り案件は、少なく特に依然として中小案件が少ない状況です。また、鋼材価格は、高止まりから少し弱含みとなってきた関係からか、元請(ゼネコン)側も発注を控えている様な感じ。来年の動向が心配です。ゼネコン側も、技術者不足なのか、受注を控える傾向にあります。しかし、若手人材の確保のため働き方改革や賃金アップを考えていかなければなりません。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年)9月分

(A)

提出日 2023年(令和5年) 10月16日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中国支部活動・行事等
鳥取県	16日(土) 東部支部合同例会 20日(水) 「鳥取県技能祭」第2回実行委員会 29日(金) 第16回鳥根県・鳥取県交流会(大山) 30日(土) 鳥根県・鳥取県 交流ゴルフコンペ(大山)	8日 全構協:次世代経営研修支部への説明会 (zoom) 20日 全構協:運営委員会(web併用) 28日 全構協:第4回理事会
鳥根県	6日(水) 工場審査説明会(雲南市) 14日(木) 工場審査説明会(出雲市) 21日(木) 工場審査サポート(益田市) 26日(火) 工場審査説明会(出雲市) 29日(金) 第16回鳥取県鉄構工業会・鳥根県鉄構工業会 交流会 30日(土) 鳥取県鉄構工業会・鳥根県鉄構工業会 親睦ゴルフコンペ	
岡山県	5日(火) 50周年実行委員会 16日(土) 岡山県建築士会ゴルフコンペ 29, 30日 鳥根県・鳥取県交流会	
広島県	22日(金) ハイスキップ構法等講習会 23, 24日 鉄骨製作管理受検講習会	
山口県		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	4 ~ 12	2 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 120			○			
鳥根県	3 ~ 4	3 ~ 6	1 ~ 3	80 ~ 100			○			
岡山県	12 ~ 18	3 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 100			○			
広島県	10 ~ 18	5 ~ 11	2 ~ 6	50 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 8	2 ~ 7	2 ~ 3	70 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	地元案件の見積りは全体的に少ないが、商業施設・物流センター・倉庫・工場が年明けから年度末にかけて計画物件がある。各社は年末まで忙しい状況下ではあるが、少し加工手間の空いてるFABもみかけられる。県内組合員同士の情報交換を密に広く行い、山谷を少なくして安値受注しない努力しているが、物件によっては少し安値が出ているケースが見受けられる。
鳥根県	Hグレードでは、年内は、ほぼ山積みが確保されましたが、来年1月～2月は落ち着く模様であり、3月に降については秋頃まで仕事量は確保出来ていません。Mグレードは、全般的に来年の2月頃まで仕事量は確保出来ていますが、来年の工事見積りについては、少ないと回答する企業が多く不透明な状況です。Rグレード以下の下位グレードでは、年内の仕事量は確保出来つつありますが、全般的に見積物件数は少なく来年の状況については不透明な模様です。
岡山県	都心部を顧客とするHグレードは相変わらず活況であるが、地元中心のMグレード以下にとっては厳しい状況が続いている。地方に於ける民間投資意欲は極めて低く、大型案件が誘致されない限りこの厳しい状況は続くものと思われる。頼りの官庁もインフラの長寿命化に予算を取られて箱物への投資は皆無の状態である。岡山県に於いてはアウトローの存在もあり価格維持が極めて困難な状況となっており、何らかの対策が必要と思われる
広島県	引続き、稼働率100%の回答企業が65%を占めるなど高稼働が続くが、一方で低稼働の小規模工場も散見される。手持工事量では、Hグレードは概ね1年超、Mグレードは5か月以上、R以下は3か月以下と、グレード間格差は益々顕著になってきている。見積りについては、「多い」の回答はほとんどなく、「少ない」が「普通」をやや上回り、停滞が続いている。各社とも当面の仕事に忙しいが、Hグレードを除き、総じて先の仕事の決まり具合が芳しくなく、先行き不透明感が徐々に増大しつつある。また、図面承認の遅れによる工期のずれ・圧迫や、製作原価上昇に無理解なGCの指値への対応に苦慮する声が上がっている。
山口県	Hグレードは、残工事の追い込みもほぼ落ち着き、次物件の製作に入ったものの図面が決まらず足踏み状態。見積りは変化なし。来年の問い合わせも幾らかあるが、工場物件が多く5～7月頃の納期に集中している様子。M・Rグレードは、自社物件や同業他社の応援、シェア物件で工場稼働率を確保している様子。図面遅れ等で工場が手待ちになっても仲間と仕事のシェアで工場製作を維持できそうだとの声もある。見積りが少ないと話す地域や小物件、現場鉄工の見積りが多く大中物件は見積があっても受注までに時間がかかると話すファブもいる。電気、ガス、消耗品等の値上げで加工単価が厳しい中、ガソリンの高騰により輸送費の単価も変わっており、価格転嫁をアナウンスしても取引先によっては厳しい指値がある。建設業、運送業2024問題の対応を検討するとともに今一度、適正化価格と労働条件を踏まえて製作工程等を取引先と交渉する必要があると感じている。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年)10月分

(A) 提出日 2023年(令和5年) 11月6日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中国支部活動・行事等
鳥取県	10 日(火) 東部支部例会 17 日(火) VR溶接機実技説明会(青年部会) 22 日(日) 鳥取県技能祭	11 日 第3回中国支部会(岡山市) 11, 12日 全構協:次世代経営研修(岡山市) 26 日 全構協:運営委員会(web併用)
島根県	17 日(火) 工場審査(前期延期分)1社 25 日(水) 役員会(出雲市)	
岡山県	17 日(火) 第4回 理事会 17 日(火) 50周年実行委員会	
広島県	3 日(火) フィットテスト先行実施(西部:広島) 6 日(金) フィットテスト先行実施(東部:福山) 17 日(火) 組合三役会・理事会	
山口県	2 日(月) 三役会 13,14日 超音波探傷試験(レベル1, 2)実技講習会 17 日(火) 創立50周年記念事業準備委員会 17 日(火) 第4回理事会	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	4 ~ 13	2 ~ 12	1 ~ 3	85 ~ 120			○			
島根県	2 ~ 3	3 ~ 7	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
岡山県	10 ~ 17	2 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 100			○			
広島県	10 ~ 14	2 ~ 8	1 ~ 3	60 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 8	3 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	県内発注の物件量が公共・民間ともに少ない状況が続いているが、H・Mグレード各社は年末にかけて忙しく残業でカバーしている。また、県外物件・同業者の応援物件などの実行予算を確認し仕事量を調整運営していきながら、安値受注を出さないように踏ん張っている状況が見受けられる。季節的に気温の変化が厳しくなって、健康面での注意事項としてインフルエンザ感染予防して欠勤者が無いように啓発活動を行っている。
島根県	Hグレードは、年内の仕事量は確保出来ていますが、来年1月～2月は落ち着く模様で、3月から秋頃までの仕事量については確保出来つつある様です。Mグレードは、全般的に来年の2月頃までの仕事量は確保出来ていますが、来年の工事見積りについては、少ないと回答する企業が多く先行きについては不透明な見通しです。Rグレード以下の下位グレードでは、年内の仕事量は確保出来ていますが、全般的に見積物件数が少なくMグレード同様に先行きは不透明な模様です。
岡山県	地方に於いては公共工事の発注もひと段落の時期であり、本来は年度末に向けての準備にはいるところであるが、本年度に関しては未だ工事積み上げ量を確保していない会社もある状態である。民間投資に関して地方ではほぼ絶望的な状況が続く中、地方を中心に活動するMグレード以下にとっては厳しい冬となりそうである。この状況が長く続く様であれば再び価格の過当競争が始まる可能性が否定できない為、何らかの対策が必須であると考える。
広島県	稼働率100%以上の回答企業が55%を占め、ほぼ全社80%以上で、引き続き高稼働状況。手持工事量では、Hグレードは概ね1年超、Mグレードはほぼ5か月以上、Rグレード以下は3か月以下と、顕著なグレード間格差は依然として未解消。見積りについては、「多い」の回答はほぼ無く、「少ない」の回答は、R以下は全社、全体で60%を上回り、中小物件の先行きはかなり厳しそう。各社とも当面の仕事に忙しいが、Hグレードを除き、年明け以降の仕事の見通しに明るさが見えず、先行き不透明感は徐々に増大しつつある。
山口県	Hグレードでは、新物件が動き出し今月は通常の加工状態に戻ったが、来月からまた重複物件があり納期に迫られる状況になる見込み。見積りは先月より若干増えプラント関係が多い。納期が来年の同じ時期に集中している傾向があり秋口から少ない。また、加工単価の大幅アップは難しいと話す。M・Rグレードでは、各社忙しい様子で見積物件が増えてきたと話す地域もあるが、依然先行き不透明感はある。組合員同士で横繋りの関係が出来ており、スポット的に苦しい時でも仕事をシェアして工場稼働を維持する等、良好な環境づくりができていていると感じている。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年)9月分

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	19日(火)情報交換会・理事会 11,12,13,15,19,22日 UT1 受験直前勉強(学科) 15,19,22日 鉄骨超音波実技	◇四国支部会 日時:9月21日(木) 場所:香川県宇多津町ホテルアネシス瀬戸大橋 議事:①全構協理事会報告 ②全構協各委員会報告 ③次世代経営研修受講対象者選定について ④支部交流会(愛媛開催)について ⑤三支部理事長会(四国開催)案内について ◇鉄骨製作管理技術者講習会(1,2級) 日時:9月21日(木)～22日(金) 場所:香川県宇多津町ホテルアネシス瀬戸大橋 以上
香川県	4日(月)ポリテクセンター講習会打合せ 12日(火)後期工場審査打合せ 21日～22日鉄骨製作管理技術者講習会 27日(水)櫛キーエンス商談	
愛媛県	26日(火)理事会	
高知県	26日(火)理事会 29日(金)メッキ工場見学会	

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	3 ~ 11	2 ~ 3	~ 3	80 ~ 120			○			
香川県	4 ~ 8	3 ~ 6	~	90 ~ 120			○			
愛媛県	6 ~ 14	3 ~ 5	2 ~ 5	90 ~ 120			○			
高知県	5 ~	2 ~ 6	1 ~ 3	80 ~ 120			○			

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	関西圏で来年に向けての動きが見られ加工単価上昇の気配があるものの副資材、メッキの値上がりが続く、運送費も含め見積りに注意が必要。相変わらず県内、地元の見積りが少ない上、4月以降の見通しが全体的に不透明。
香川県	県内案件は少ない為、県外案件の協力などにより稼働率100%を維持しているFABが多い。受注価格については、ここ数ヶ月横ばいの傾向が続いており充分ではないが価格転嫁もできている物件が若干増えている傾向と思われる。今後の見通しは、秋以降が不透明な状況にある。
愛媛県	Hグレードでは来年11月分まで確保済みのFABもあるが、大部分のFABでは来年春から夏場にかけてが受注契約済みで、現在はそれ以降の契約に向けて話を進めている状況。R・Mグレードで年内一杯から来年2月頃まで確保しているところが大半ですが、R・Mグレードの手持加工量については「ほとんど手持が無い」状態から急に3か月後～半年後に掛ける山積みが増えるケースもあり、県内市場中小物件は県下全体としての動向を掴むのは難しい面もある。
高知県	手持量は一部のFABを除いて年内一杯は確保できている。Mグレード以上では年度末位までの確保はできているFABが多い。公共工事は非常に少ない。見積り数は先月と比較し若干ではあるが増加傾向にある。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2023年(令和5年)10月分

(A)

提出日 令和5年11月7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	17日(火)情報交換会 2、4、11、12、13日鉄骨超音波実技講習会	◇四国支部会/四国支部共済推進会議/ 第34回四国支部交流会 日時:10月25日(水) 場所:愛媛県松山市ネストホテル松山 ◇支部会議事 ①支部の位置付けの明確化について ②次世代経営研修受講対象者選定について ◇共済推進会議議事 ①全構協共済事業の概要について ②後発共済事業の損害保険共済の周知 (労災事故の現状・業務災害補償について) ③各共済協力会社報告(今年度実績・事業 推進方針) 参加者50名(内、共済協力会社12名) ◇第34回四国支部交流会議事 ①支部各県状況報告 ②永井会長、大島副会長、大竹副会長、 小貫専務理事、全構協三役の皆様方との 意見交換会 参加者42名 以上
香川県		
愛媛県		
高知県	16日(月)後期工場審査打合せ	

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	4 ~ 7	~ 2	~ 3	80 ~ 120			○			
香川県	~ 8	2 ~ 6	~	90 ~ 120			○			
愛媛県	5 ~ 13	3 ~ 5	2 ~ 5	90 ~ 120			○			
高知県	5 ~	2 ~ 6	1 ~ 3	80 ~ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	Hグレードは春までの仕事を持っているが、それ以外は年明けまでが多い。4月以降に不安感がある。材料代の高騰に収まりの気配が見られるが、外注は値上がりが続く。大手、中堅、地元のゼネコンで加工単価のひらきがあり、価格高騰を加工単価に反映させていくのが課題。図面承認の遅れから工程がひっ迫するところも出ている。
香川県	県内見積もり件数は、ゼネコン・設計事務所ともに少なく、地元物件をしっかりと受注しているFABもあるが量は少ない。従って、県外物件および商社鋼材店の物件を協力して対応しているのが現状で、年末以降の状況は不透明。
愛媛県	現状の県下工場稼働率はHグレードで100~120%、M・Rグレードで90~100%程度です。但し、図面承認の遅れ、変更が原因での残業も多く、効率的な操業が出来ないとの声も多くある。今後の状況を占う見積状況についてはHグレードでは本州物件、商社仲介等でそれなりに見積は見込みますが、県内物件については、「益明けから見積増えてきた」と一部の組合員からは聞かれますが、大多数のFABではH・M・Rグレードに関係なく、「県内現地物件の見積は少ない」「100トン以上の見積は少ないし、また情報も少ない」との事で年度末に掛けて県内物件の状況に不安が残る。
高知県	手持ち量は一部のFABを除いて年内一杯は確保できている。Mグレード以上では年度末位までの確保はできており稼働率も高い。公共工事は非常に少ない。見積件数は先々月、先月と少しづつではあるが増加傾向にある。

＜九州支部＞ 状況報告書

2023年度(令和5年度) 9月分

(A)

提出日 令和 5年 10月 3日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県		九州支部活動・行事等
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・9/12 令和5年度後期申請対象 性能評価工場認定説明会 ・9/14, 21 S-File取得の為の溶接セミナー 於:ポリテクセンター小倉 ・9/14 品質向上パトロール(Mグレード1工場) 9/21 技術委員会 ・9/25 令和5年度第2回福岡県建築鉄構協議会運営委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・9/5 全構協九州支店於:福岡市 鉄骨製作管理技術者講習会講師打合せ ・9/6 全構協九州支部H部会 於:鹿児島県 現場見学会、役員会、品質・安全パトロール委員会 例会、懇親会 ・9/8 第5回九州支部事務局Web会議
佐賀県	9/7 中小企業団体中央会九州大会出席 9/15 定例理事会・全体会議・長崎・佐賀合同研修会 9/27 品質・安全パトロール	
長崎県	9/6 総務・経営対策委員会、9/15 理事会・例会・佐賀県との合同研修会、9/23 長崎県溶接技術競技会 参加、9/26 長崎県建築鉄骨研究会 出席	
熊本県	9/11 理事会・定例会 9/12 認定サポート部会	
大分県	9/12三役会・理事会・全員協議会・ドッドウエル生産管理・懇親会	
宮崎県	9/2 自民党政経セミナー参加 9/7 中央会九州大会(宮崎開催)参加 9/22 青年部会幹事会開催 9/30 古川衆議院議員(組合顧問)セミナー参加	
鹿児島県	9/16青年部会役員会 9/25建築専門業団体と建築協会との協議会 9/29～30視察研修(アマダ・グローバルイノベーションセンター)	
沖縄県	・9/4日:JSCAとの事前打合せ、5日:定例理事会、6日:JSCA 共催技術研修会開催、9日:沖縄県溶接技術競技会、12日:営業部会、14日:鉄骨製作管理技術者講習会(1回目)、30日:鉄骨製作管理技術者講習会(2回目)	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J		稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)
福岡県	5 ~ 12	3 ~ 6	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	12	1 ~ 4	1 ~ 3	50~100		○				
長崎県	8 ~ 15	4 ~ 10	2 ~ 3	70~120		○				
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	3	97.3		○				
大分県	6 ~ 13	3	-	90~100		○				
宮崎県	3 ~ 10	2 ~ 6	0.5 ~ 3	50~100		○				
鹿児島県	5~12	1~6	1~2	70~100			○			
沖縄県	2 ~ 3	2 ~ 3	1 ~ 3	80~100	○					

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・大型物件等の引合や仕事量はあるものの、小規模物件の仕事量が少ない状況。(前月同様)
佐賀県	・人件費、資材価格、輸送価格の高騰を受注単価に転嫁できるか大きな課題である。 ・最近、小物件の見積りが増えて来ているが、単価が合わず受注には至っていない。
長崎県	・見積り件数が落ち着いている。 商社物件も落ち着いてきた。 ・大型物件の消化時期に入ってきた。 加工価格の交渉が上向ってきた。
熊本県	商社の動きが顕著になっている。 公共工事が少ない。中小物件が少ない。 図面の承認が遅いので、予定より作図工程が遅くなり工場の工程がうまく流れない。現場労務の手配がさらに難しくなっている。
大分県	◎来年の中小物件が見積り少なめ。◎特定技能1号の申請を行う予定だがかなり手がかかり、あいまいな部分が多い。◎図面の決まりが遅く、設計図が何回も出てくるので材料発注が大変。◎周りは値上げしているが値上げしている割には単価が上がらない。
宮崎県	・民間を中心に地元案件が少し出てきている。これに伴い、Rグレードの稼働率も上がってきた。 ・年末から春先までの受注量については不透明。
鹿児島県	受注物件の図面承認が遅れ製作が出来ないため、その合間に他社の応援をしてしのいでいる。工期に間に合わせるのが大変。
沖縄県	・引合い物件が増えてきた。Hグレード各社の手持ちは増加している。確認申請の遅れで生産工程調整等に苦労している。

＜九州支部＞ 状況報告書

2023年度(令和5年度) 10月分

(A)

提出日 令和 5年 11月 7日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県		九州支部活動・行事等
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> 10/11 定例理事会、全体会議、安全に関する講習会 10/12 技術委員会 10/17 Mグレード性能評価工場審査 	<ul style="list-style-type: none"> 10/2~4 全構協九州支部主催 鉄骨製作管理技術者学科講習会 於:福岡市
佐賀県	10/11・12 中小企業団体中央会 全国大会出席 10/21 研修会打合せ 10/31 中小企業団体中央会 役員会	<ul style="list-style-type: none"> 10/19 第6回九州支部事務局Web会議
長崎県	10/6 長崎県建築鉄骨研究会作業部会打合せ出席、10/11 検査・技術委員会、10/17 長崎県建築鉄骨研究会作業部会出席、10/30 臨時総会	
熊本県	10/17 理事会 10/27 鉄骨問題協議会	
大分県	10/4、10/17超音波探傷器操作指導 10/13 R6後期認定申請者対象説明会、青年部役員会、青年部懇親会 10/26 三役会、理事会、認定部会(対面・WEB併用)	
宮崎県	10/6-8 青年部会創立30周年記念北海道旅行 10/17 第3回理事会開催 10/19 第4回幹事会開催 10/19 宮崎市長市政報告会参加 10/27 鹿児島県組合との交流会(ゴルフコンペ・懇親会)	
鹿児島県	10/13理事会(Web) 10/20青年部会・JSCA鹿児島との勉強会 10/26青年部役員会(Web) 10/27宮崎県工業会との交流会(ゴルフコンペ・懇親会)	
沖縄県	・10/7日エンドタブ施工講習会、10日:定例理事会、13日:沖縄県産業安全衛生大会、17日:営業部会、21日:鉄骨製作管理技術者学科試験、24日:青年部会	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	5 ~ 12	3 ~ 6	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	2 ~ 5	1 ~ 2	80~100		○				
長崎県	8 ~ 13	4 ~ 10	2 ~ 3	70~120		○				
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	3	99.3		○				
大分県	6 ~ 13	2.5 ~ 7	-	80~100		○				
宮崎県	5 ~ 12	2 ~ 3	0.5 ~ 2	50~100		○				
鹿児島県	4~12	2~10	1	60~100			○			
沖縄県	2 ~ 3	2 ~ 3	1 ~ 3	90~100	○					

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> 図面の遅れや変更がファブの負担となり、工期に大きな影響が出ている。
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保、材料副資材、エネルギーの高騰、世界情勢不安定等により先の見通しが難しい。 県内は中小案件が少ない状況であり、先行きが不透明である。
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> 見積り件数が落ち着いている。 商社物件も落ち着いています。 大型物件の消化時期に入って来た。 加工価格の交渉が上向ってきた。 承認依頼の図面提出からの戻りが遅く、製作工程の日数不足がおおくなった。
熊本県	見積りが少ない。(概算は多い) 公共工事が少ない。 中小物件が少ない。 図面の承認が遅いので、予定より作図工程が遅くなり工場の工程がうまく流れない。現場労務の手配がさらに難しくなっている。
大分県	◎現状山積は高い。来年以降の中小物件も見積りが始まったが中東問題や戦争等で今後どうなるか懸念される。◎鋼材及び二次製品、消耗品の値上がりが気になる。◎図面の決まりが悪く、設計図が何回も出てくるので材料発注が大変。◎大型物件の話はあるが、小規模物件の話が少ない。
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> 中小物件は増加傾向にある。鋼材や副資材の高騰分についても一定の価格転嫁が進んでいるのではないかと。 鋼材や副資材に加え嵩や物流費が今後値上がりすることから、工事の延期や規模の縮小、木造への変更等不安定な状況が続いている。
鹿児島県	見積りが少なく、先の受注が埋まらない状態。図面承認の遅れと決まってから後の変更はどうにかならないものか。製作日数の圧迫など今後残業時間の上限問題や働き方改革によるしわ寄せは計り知れない。
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率は高めながらも手持ち工事量に各社ばらつきがみられる。中小物件及び躯体付属金物等の引き合いが増えてきた感がある。

【理23-5-報4】別紙

ロボットオペレーター資格JIS化について

支部	賛否	理由
北海道	×	①似たような資格と重複している為
		②余計な費用と時間がかかる為
		③明確な理由がわからない為
東北	×	ロボット溶接機自体がメーカー各社の型式認証を取得しているとともに、機種毎のオペレータ教育も充分に実施された上で、実際の工場作業に従事している
関東	×	①ロボットを導入していればメーカーから指導がある。費用の問題もあるが、従業員が辞めた場合に有資格者がいなくなり、交付がすぐできなければ困る企業が出てくる。
		②ロボット動かすのに何か資格とか条件などは必要でない。
		③メーカーが交付書を発行する。性能評価では義務付けられていない。
		④ロボットのAW取得に溶接資格が必要。ロボットオペレータ資格は別になって良い
		⑤取扱いの特別教育は取得する。取扱いさえできていれば良い。
		⑥JASS6では半自動溶接の下向き以上があれば良いが、設計事務所はAW有資格者ではなくては駄目と言っている。新しい資格になると基礎のための資格になるので二重になる。
		⑦現状問題が起きているのであれば考えなくてはなりません、何かあるか？
		⑧ロボットを24時間稼働させても資格者がつく必要があると人手不足解消にならない。
北陸	×	メリットが見えにくい上、資格が増えることで負担が増えるため。
中部		
近畿	×	① Fabにとって時間的負担が大きい
		② これ以上資格を増やしたくない
中国		
四国	×	① JIS化の必要性に疑問
		② 現行資格取得者の扱いに関して配慮が不明
九州	×	① Fabにとってのメリットが全くない。
		② 溶接協会の実入のために何故Fab側が負担しなければならないのか意味がわからない。
		③ 資格の地位向上とあるが、言うほどの効果があるのか。
		④ これ以上資格を増やす意味があるのか。
		⑤ AWの二番煎じ。

鉄骨業界はすでに働き方改革を実施しています

工場はすでに土日閉所です。

- 月曜日朝の納品(建て方)をご希望の場合、金曜日午後製品の積込を行い、月曜日の朝出荷となります。したがって、従来不要であった土日2日分のトラックチャーター料が必要となります。



金額だけが契約条件、取引条件ではありません。

- 契約条件には工期、工程も要素に含まれます。したがって、工期が不透明な状態での予約はお受けできません。
- 施工図承認の遅れにより発生する負担(コスト・納期)を我々は負うことができません。施工図承認の遅れは工場の生産の停止に繋がります。大きな損失となります。ご理解ご協力をお願いします。



契約範囲を超える要求は、お受けすることはできません。

- 工場生産計画を乱す契約を超えるサービスはお断りする可能性があります。可能であっても追加料金が発生することをご理解ください。
- 追加料金には直接的な追加作業だけでなく、機持ちやレイアウト変更といった間接的な費用も含まれます。



鉄骨工事をご発注いただく全てのお客様へご理解とご協力をお願いいたします



一般社団法人
全国鐵骨工業協会
Japan Steel Fabricators Association



2023年12月



全構協 50 周年記念動画 鉄骨人物讃歌

一般社団法人全国鐵構工業協会は、その前身が 1973 年に創立され、このたび 50 周年を迎えました。協会の節目を迎えるにあたり、記念事業として、鉄骨ファブを紹介する映像を制作しました。制作にあたっては、全国の構成員企業から応募をしていただき、その中から 6 社（7 人）を選んで、実像を紹介する映像としました。



鉄骨業界で働く人たちを
動画で見る（フルバージョン）



一般社団法人
全国鐵構工業協会
Japan Steel Fabricators Association

様々な職種が支える鉄骨業界



鉄骨といっても、一般の方にはなじみのないものでしょう。でも、地震国日本の建築物を支える重要な建築部材であり、その品質レベルは国際的にもトップ水準にあります。

そのような鉄骨を製作しているファブ（工場）で働いている従業員が、どういう想いをもって、どのような仕事をしているのか、外部からはうかがい知れないと思います。

世界最高の品質を作り出すために、製作にあたっては細かな匠の技が求められます。また鉄骨は一品ごとに仕様が異なり、大量生産できないため、前後工程やお客様との細かな調整が求められます。そのようなファブの仕事の世界をぜひご覧ください。

ファブで働いている従業員は、初めからファブを目指してきた人ばかりではありません。前職でいろいろな経験をしてきて、たまたまファブに入ったという人もいます。

初めは用語もわからず、悩みながら仕事を覚え、一人前に育ちました。今では後輩から目標とされるような立派な職業人になりましたが、彼ら彼女らが、悩みをどのようにして乗り越え、仕事というものをどのように考えているのか。



仕事というものを どのように考えているのか

それを語ってもらうために、次のような質問に対して各自の言葉で答えています。

- ・あなたの仕事のやりがいは？
- ・あなたの夢は？
- ・あなたの仕事の目標は？
- ・あなたにとって働く意義とは？
- ・あなたに影響を与えた人は？
- ・あなたにとって仲間とは？



やりがいが自分を成長させる



ひたむきに、前向きに

鉄骨に限らず、職業人としてどのように生きるのか。

ひたむきに、前向きに、仕事に取り組んできた彼ら彼女らの熱い想いが、これから職業を考えようとする方々の参考になれば幸いです。



未来を築く



一般社団法人
全国鐵構工業協会
Japan Steel Fabricators Association

〒103-0026

東京都中央区日本橋兜町 21 番 7 号 HF 日本橋兜町ビルディング

TEL : 03-3667-6501 (代表) FAX : 03-3667-6960

<https://jsfa-web.jp>

